

城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事

図 面 リ ス ト			
図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
A－０１	表紙・図面リスト	A－２１	改修前 屋根廻り詳細図
A－０２	建築工事特記仕様書	A－２２	改修後 屋根廻り詳細図
A－０３	付近見取図・配置図・工事概要(屋根改修・内部改修)	A－２３	仮設計画 １階平面図 (参考)
A－０４	外部仕上表・内部仕上表	A－２４	仮設計画 ２階平面図 (参考)
A－０５	改修前 １階平面図	A－２５	仮設計画 屋根伏図 (参考)
A－０６	改修前 ２階平面図	A－２６	仮設計画 断面詳細図１ (参考)
A－０７	改修前 屋根伏図	A－２７	仮設計画 断面詳細図２ (参考)
A－０８	改修前 立面図		
A－０９	改修前 断面展開図	S－０１	改修前 鉄骨屋根 梁伏図 トップライト 梁伏図・トップライト 金物伏図
A－１０	改修後 １階平面図	S－０２	改修後 鉄骨屋根 梁伏図
A－１１	改修後 ２階平面図		
A－１２	改修後 屋根伏図	G－０１	外壁改修工事特記仕様書(1)
A－１３	改修後 立面図	G－０２	外壁改修工事特記仕様書(2)
A－１４	改修後 断面展開図	G－０３	外壁改修工事特記仕様書(3)
A－１５	改修前 矩計図	G－０４	工事概要(外壁改修・屋根防水改修)・平面図
A－１６	改修後 矩計図	G－０５	立面図・塗装吹付図
A－１７	改修前 断面詳細図		
A－１８	改修後 断面詳細図		
A－１９	改修前 １・２階 平面・断面詳細図 建具表		
A－２０	改修後 １・２階 平面・断面詳細図 建具表		

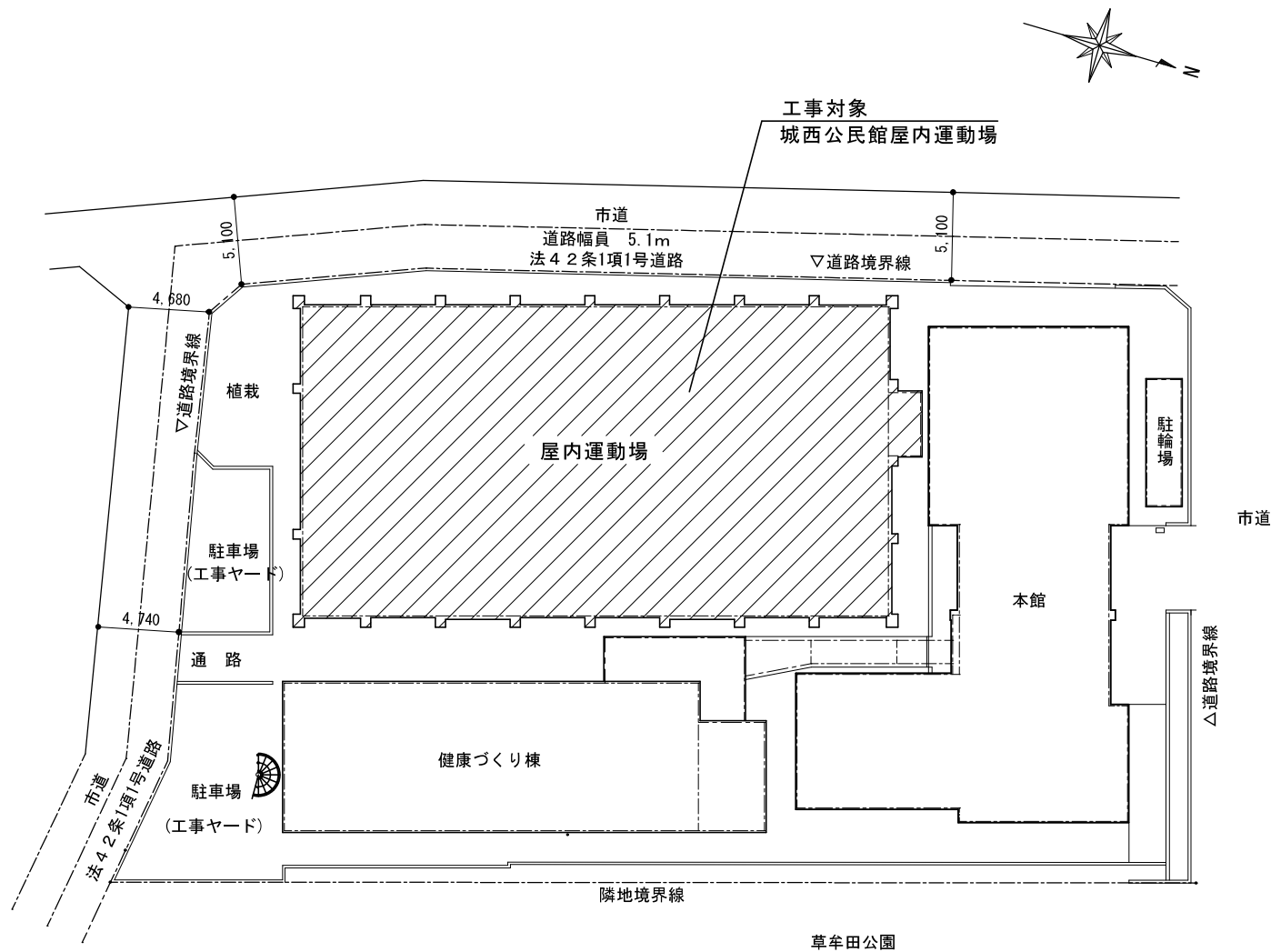
[illegible]

工 事 概 要		特 記 事 項			
工 事 名 称	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事	解体撤去工事	▪ 改修建物の撤去工事については、躯体及び他の仕上げ材を損傷し悪影響を及ぼさない様に注意すること。	そ の 他	▪ 内装の仕上に使用する建築材料は全て、F☆☆☆☆以上を使用すること。
工 事 場 所	鹿児島市草牟田一丁目21番8号		▪ 部分的な仕上げ材撤去については、専用切断機により切断し施工すること。		▪ 改修工事により、その他の部分を破損した場合は現状復旧すること。
用 途 地 域	都市計画区域 市街化区域 第二種中高層住居専用地域		▪ 既設取付金具については、取付面の下地部分を撤去し、金物をコンクリート面で切断後		▪ 改修工事のため本工事部分を施工前に現地実測の上、再確認すること。
建 物 概 要	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 平家建 建築面積 637 m ² 建物高さ 12.50 m		錆止め塗料（ JIS-K-5674 ）を塗布して部分補修を行うこと。		▪ 屋根等の新設部分については現地実測を行い、 施工図作成・強度の確認を承認してから、監督員に提出し監督員の承認を得てから発注・製作にかかること。
			▪ 金物、鉄筋、錆部、躯体面より番線・金物の出ている場合、躯体面より切断の上、十分錆落しを行い		▪ 既存仕上の取替・塗替部分及び既存との取合部分は、清掃の上既存下地処理・ケレンを行うこと。
建 物 用 途	屋内運動場		防錆処理を施して復旧すること。		▪ 改修部分・既存のままの部分は、全て清掃を行い汚れ部を除去すること。
工 事 概 要	【屋根改修】 既設屋根（耐火野地板を除く）の撤去新設 トップライトの撤去及びそれに伴う改修 【内部改修】 既設内壁の劣化部分の改修				



工事場所：城西公民館
鹿児島市草牟田一丁目21番8号

付近見取図 No scale



配置図 S=1/400

一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸		城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事 付近見取図・配置図 工事概要(屋根改修・内部改修)		A1:1/200 A3:1/400	A-03 鹿児島市建設局建築部建築課
		鹿児島市建設局建築部建築課			

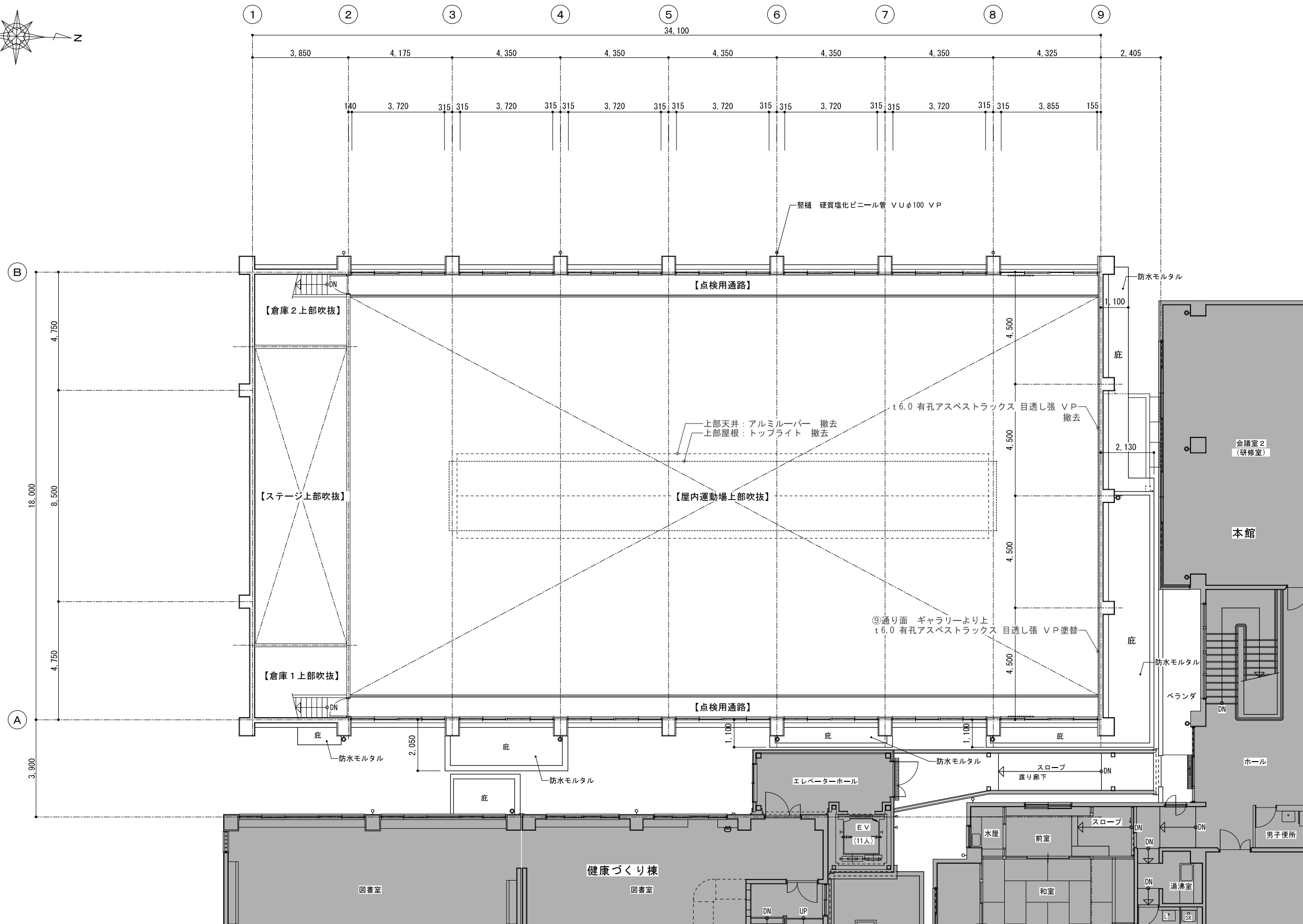
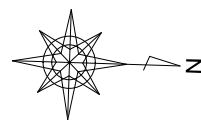
外 部 仕 上 表			特 記 事 項（外部・内部共）		
屋 根	【改 修 前】	前回改修時：t 0.4 横葺フッ素樹脂銅板（カバー工法）、アスファルトルーフィング、野地板 85×20 CCA加工、棟押・捨板：フッ素樹脂銅板 撤去 新築時：t 0.5 スーパージंक特殊樹脂塗装銅板横葺（働き幅225）・アスファルトルーフィング22kg 撤去 t 30 積層化粧耐火野地板 既設のまま	<div>（新 設 材 料）</div> <div>1. 屋根改修工事（金属屋根部分）</div> <div>t 0.35 長尺金属板横葺</div> <div>ポリエステル樹脂塗装 2%マグネシウム添加 55%アルミニウム－亜鉛合金メッキ銅板 0.35mm</div> <div>横葺 W256×H13 荷重約 5kg/㎡</div> <div>断 熱 材 付：耐熱発泡ポリスチレン（自己消火性）</div> <div>横ジョイント：ハゼ嵌合とし継手部材なし工法</div> <div>棟 包 み：屋根同材 下地－ガルバリウム銅板素地</div> <div>軒先唐草：屋根同材</div> <div>軒下包み：屋根同材</div> <div>ケラバ取合水切：屋根同材 下地－木製（注入剤処理）</div> <div>笠木：屋根同材 改質アスファルトルーフィング敷</div> <div>改質アスファルトルーフィング：改質アスファルトルーフィング 1mm 自着層付</div> <div>旧トップライト部 t 30 積層化粧耐火野地板：高圧木毛セメント板貼木毛セメント板 30mm ジョイナー共（屋根30分耐火 認定番号 FP030RF-9036）</div> <div>・金属屋根の製作並びに棟部納まり等詳細については、現場実測の上施工図を作成し、監督員の承諾を受けること。</div> <div>※各部の納まり詳細はメーカー仕様・施工図で決定する</div> <div>・取付ビス等はステンレス製ワッシャー付とすること（露出部分は防水パッキン付とする）</div> <div>上記の新設材料の仕様は同等品以上とする</div> <div>2. 塗装工事</div> <div>DP塗装：3 級</div>		
	【改 修 後】	t 0.35 長尺金属板横葺 断熱材付・改質アスファルトルーフィング 新設			
トップライト	【改 修 前】	トップライト部分 下地材共全て 撤去 t 5.0 ポリカーボネート樹脂板・t 6.8 網入型板ガラス・立上り壁－t 30 積層化粧耐火野地板・アルミカバープレート120×2.0・アルミ押え縁75×6@1000 撤去			
	【改 修 後】	屋根－t 0.35 長尺金属板横葺 断熱材付・改質アスファルトルーフィング・t 30 積層化粧耐火野地板 新設 タテ母屋－W：20-100×50×20×3.2 ＋ S：0-100×50×20×3.2 DP塗装 新設			
外 壁 ・ 柱 型	【改 修 前】	モルタル刷毛引の上アクリルゴム系弾性吹付タイル			
	【改 修 後】	防水形複層塗材E 新設			
軒 庇	【改 修 前】	笠木：防水モルタルコテ押え 床及び立上り防水モルタルコテ押え下地充填塗膜防水 上裏：コンクリート化粧打放の上アクリルゴム系弾性吹付タイル 外面：モルタル刷毛引アクリル系リシン吹付			
	【改 修 後】	外面：防水形複層塗材E 新設 上裏：軒天用仕上塗材 新設			
庇	【改 修 前】	笠木：防水モルタルコテ押え、上裏：t 6.0 アスベストラックスアクリルリシン吹付 床及び立上り：防水モルタルコテ押え責任施工 外面：モルタル刷毛引 一部コンクリート打放の上アクリルゴム系弾性吹付タイル			
	【改 修 後】	外面：防水形複層塗材E 新設 上裏：軒天用仕上塗材 新設			
玄関ポーチ	【改 修 前】	床：二丁掛レンガタイル貼、巾木：人造石研出し、天井：t 6.0 石綿セメント板目透し張りAEP			
	【改 修 後】	天井：軒天用仕上塗材 新設			
巾木	【改 修 前】	モルタルコテ押え（目地分れ）			
	【改 修 後】	DP塗装 新設			
堅樋	【改 修 前】	硬質塩化ビニル管VU100 VP 掴み金物：亜鉛メッキ製OP塗装 （10本）			
	【改 修 後】	DP塗装 新設 （10本）			
建具	【改 修 前】	アルミサッシュ 強度280kg/㎡、気密8m3/mhr、水密50kg/㎡ ガラス押え：網入りガラス 出入口アルミパネル部分はポリサルファイド系シーリングとする。			
	【改 修 後】	建具廻り：MS-2（15×10） 出入口アルミパネル部：PS-2（10×10） シーリング打替			
ドレン	【改 修 前】	ルーフドレン及び中継ドレン：鋳鉄製コールタール焼付			
	【改 修 後】	DP塗装 新設 （ルーフドレン9箇所、中継ドレン4箇所）			

内 部 仕 上 表													
階	室 名		床高	天井高	床		巾 木		腰 壁 ・ 壁		天 井		備 考
			F L ±	床高+			仕 上	巾木高	下 地	仕 上	下 地	仕 上	
1 階	屋内運動場	【改 修 前】	±0	直天	t 15 T 1ベニヤ合板 鋼製床組	t 15 積層フローリング（ブナ）ウレタン樹脂塗装	木製OP	H=100	ギャラリーより上： t 25グラスウール寒冷紗押え ギャラリーより下： t 25グラスウール寒冷紗押え ス テ ー ジ 側： t 9.0 石膏ボード（一部撤去）	t 6.0 有孔アスベストラックス 目透し張 VP ⑨通り面 撤去 t 6.0 有孔アスベストラックス張 VP 木製リブ打 OP （一部撤去）破損部分3ヶ所 t 5.8 銘木ピーリング張（シオジ程度）（一部撤去）H=2420 部分	直天	t 30 積層化粧耐火野地板 トップライト部： アルミルーバー（立上り部分共）撤去	吊下げ式バスケットゴール 床下換気口、体面鏡（3面）固定式 体育器具、床金具 カーテンボックス、手摺 ステージ用移動式階段、防球ネット 換気ガラリ
		【改 修 後】	±0	直天	既設のまま	既設のまま	既設のまま	H=100	ギャラリーより上：既設のまま ギャラリーより下：既設のまま ス テ ー ジ 側： （一部新設）t 12 T 1合板	t 6.0有孔けい酸カルシウム板 目透し張 EP ⑨通り面 新設 （一部新設）t 6.0有孔けい酸カルシウム板張 EP 取替部分 3ヶ所 （一部新設）t 4.0銘木ピーリング張 ウレタン塗装品 H=2420部分	直天	既設のまま 旧トップライト部： t 30 積層化粧耐火野地板 新設	
	ス テ ー ジ	既設のまま	+970	5500	t 15 T 1ベニヤ合板 木製床組	t 15 積層フローリング（ブナ）ウレタン樹脂塗装	木製OP	H=75	軽鉄部：t 9.0 石膏ボード	t 5.5 T 1ベニヤ目透し張 OP塗装	軽量鉄骨下地	t 9.0 化粧石膏ボード張（模様入り）	ステージ幕ボックス、ステージバトン 暗幕ボックス
	倉 庫	既設のまま	±0	5400	モルタルコテ押え	t 2.0 ビニアスタイル貼	木製OP	H=75	RC部：モルタルコテ押え 軽鉄部：t 9.0 石膏ボード	VP塗装 t 5.5 T 1ベニヤ目透し張 OP塗装	軽量鉄骨下地	t 9.0 化粧石膏ボード張（模様入り）	室名札、天井点検口、階段手摺
	ステージ収納庫	既設のまま	±0	直天	モルタルコテ押え								
2 階	点検通路	既設のまま	+3200	直天	モルタルコテ押え		モルタル コテ押えVP	H=50	柱・梁型：モルタルコテ押え	AEP塗装	直天		カーテンボックス：木製OP

◎アスベスト含有成形板の対象物及び処理方法について（レベル3）

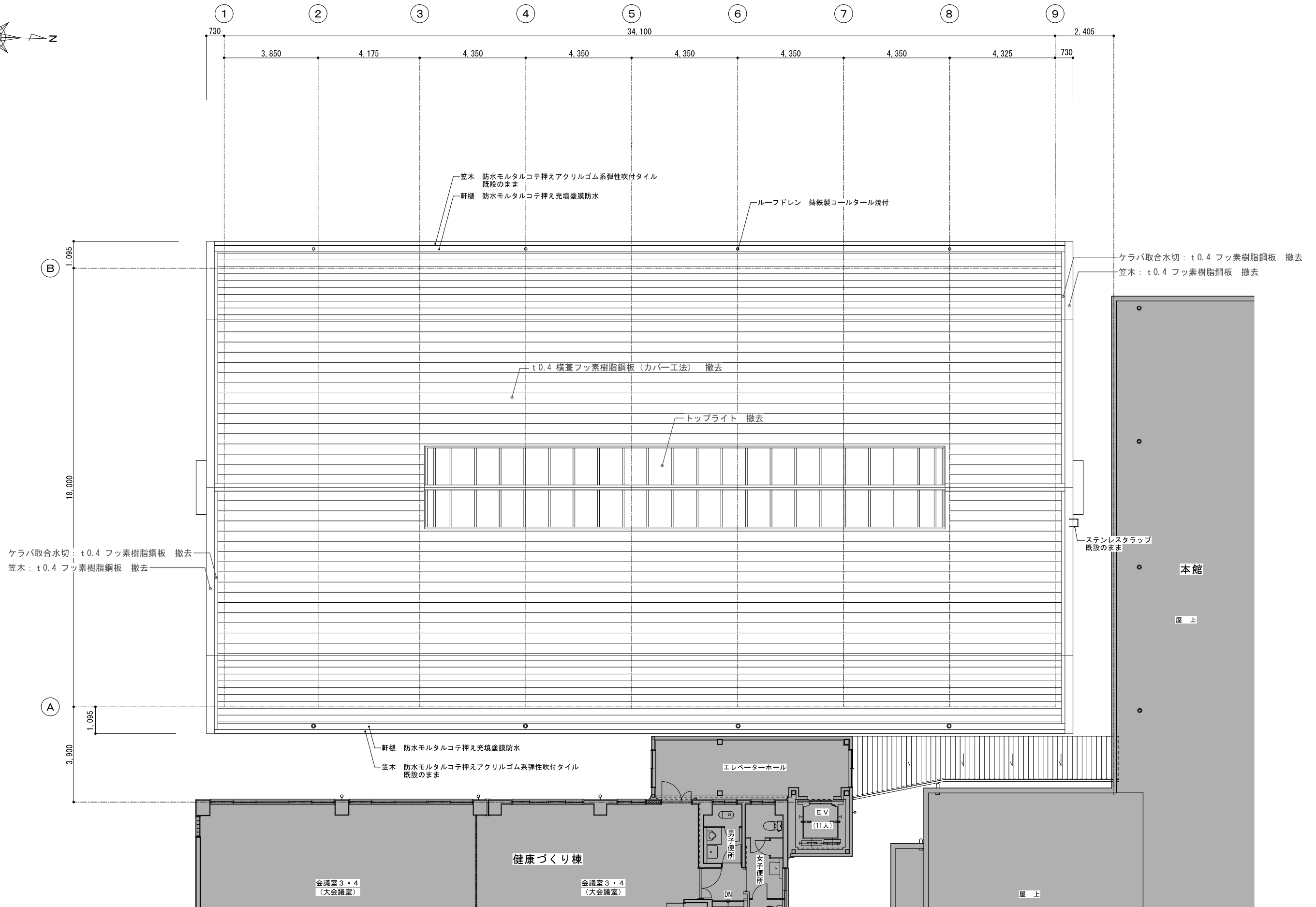
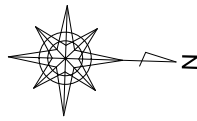
<div>1. 既存内・外装材における石綿含有の有無</div> <div><div>・ 未調査（以下の既存仕上材について石綿含有の分析調査を行い、監督員に結果を報告すること。 石綿が含有されている場合は、施工範囲や工法等について監督員と協議すること。） 調査箇所（計 箇所）</div><div>◎ 調査済（ ◎有 ・ 無 ） 【使用箇所】 ◎ 検 出 庇上裏：リシン吹付 ・ 未検出 屋根：耐火野地板、アスファルトルーフィング ・外壁：吹付タイル、シーリング 内壁：下地石こうボード</div><div>◎ みなし含有部分 有孔アスベストラックス</div></div>	<div>2. 処理方法</div> <div><div>・他の解体工事に先立ち、除去対象となる部材を湿潤化した後「手ばらし」により、破壊や粉碎しないように処理すること。</div><div>・処理にあたっては、床養生シートを1m幅で敷き込み、飛散防止を図ること。</div><div>・撤去したアスベスト含有成形板は、湿潤化の上、厚さ0.15mm以上のプラスチック袋詰め及び養生シートによる梱包等で飛散防止をする。（2重梱包）</div></div> <div>3. 安全衛生管理</div> <div><div>・石綿則に定める「石綿作業主任者（特定化学物質作業主任者の中から選任）」が作業管理者となり、その作業管理者の指示に従って作業する。</div><div>・アスベスト含有成形板・仕上塗材の処理工事は、アスベストの解体等の作業にかかる石綿則を遵守すること。</div><div>又、作業者は就業時に石綿則第27条に基づく特別の教育を受けた者とする。</div><div>・使用器具・機械類等は、アスベスト含有成形板の除去に必要な工具・機器類等であること。 （防塵マスク・エアレス噴霧器・HEPAフィルター付真空掃除機等）</div></div>	<div>4. 集積・運搬・処分</div> <div><div>・高所からの移動は、揚重機等を使用して、アスベスト含有成形板・含有塗材を高所から投下しないこと。</div><div>・除去したアスベスト含有の集積及び積込みは、廃棄物の積替え移動回数を最小限にするよう計画すること。</div><div>・アスベスト含有の運搬にあたっては、運搬車両の荷台全体をシート等で完全に覆い、飛散防止に努めること。</div><div>・マニフェスト票の備考欄に「アスベスト含有」であることを明示し、適正に処分すること。</div><div>※ 関係法令：改正石綿障害予防規則（石綿則）・大気汚染防止法</div></div>
---	--	--

一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事		
	外部仕上表・内部仕上表	No scale	A－O 4
	鹿児島市建設局建築部建築課		



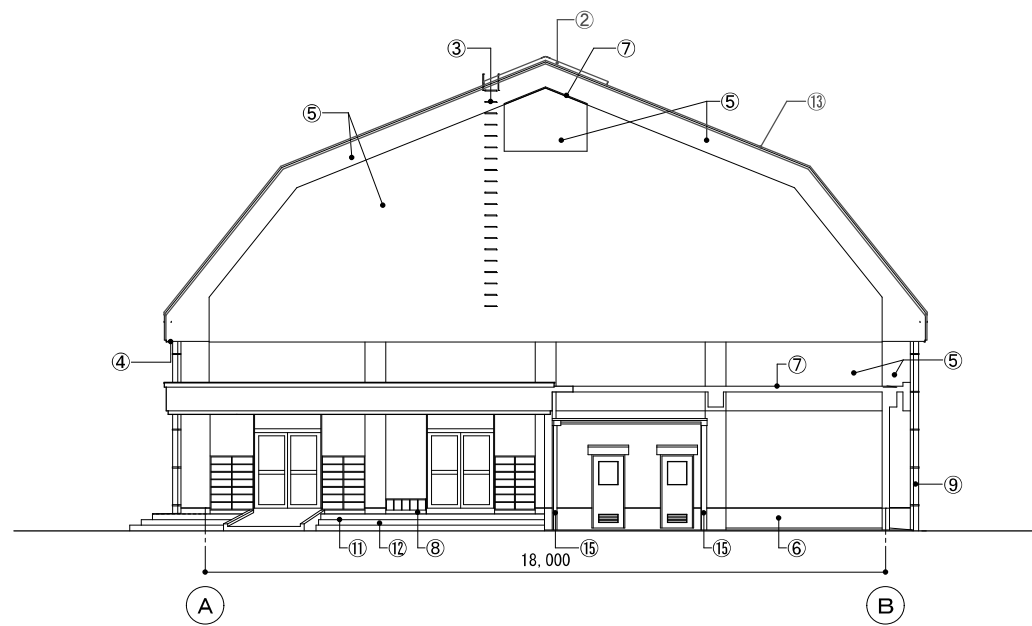
改修前 2 階平面図 S=1/150

一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事		
	改修前 2 階平面図	A1: 1/75 A3: 1/150	A－06
		鹿児島市建設局建築部建築課	

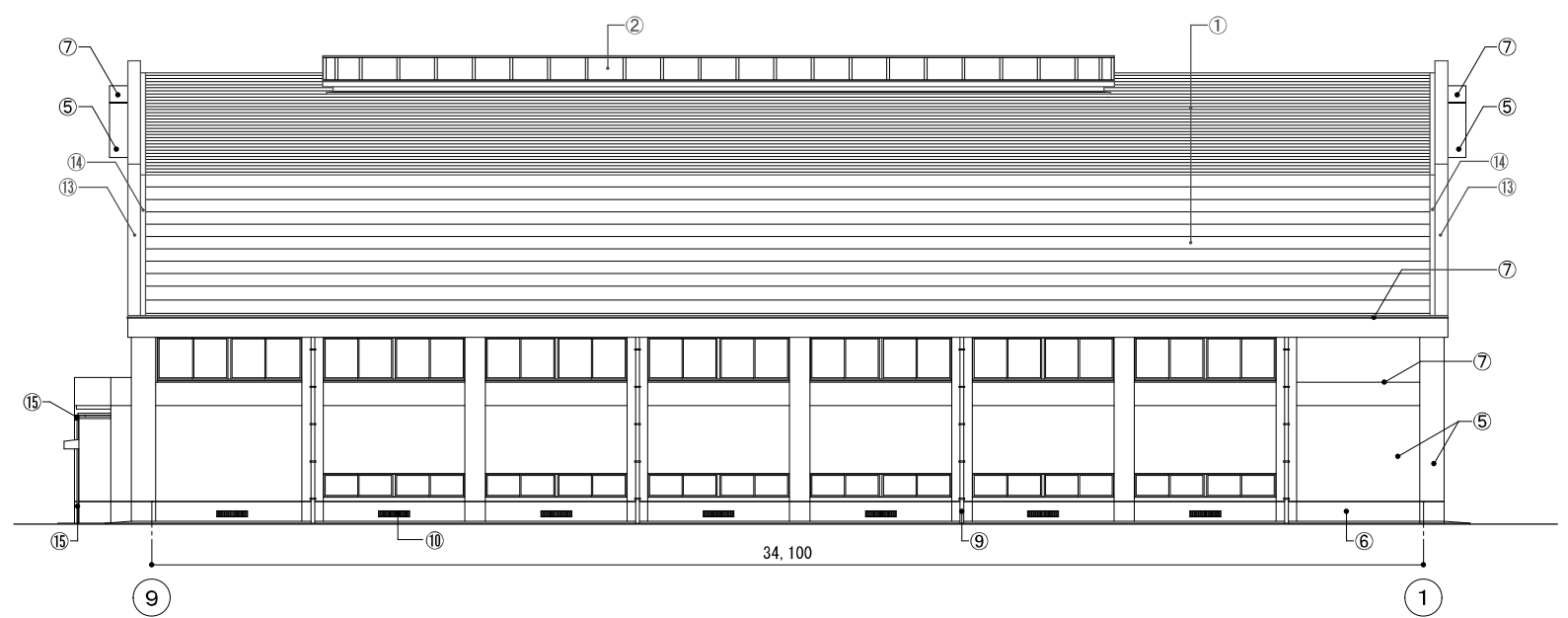


改修前 屋根伏図 S=1/150

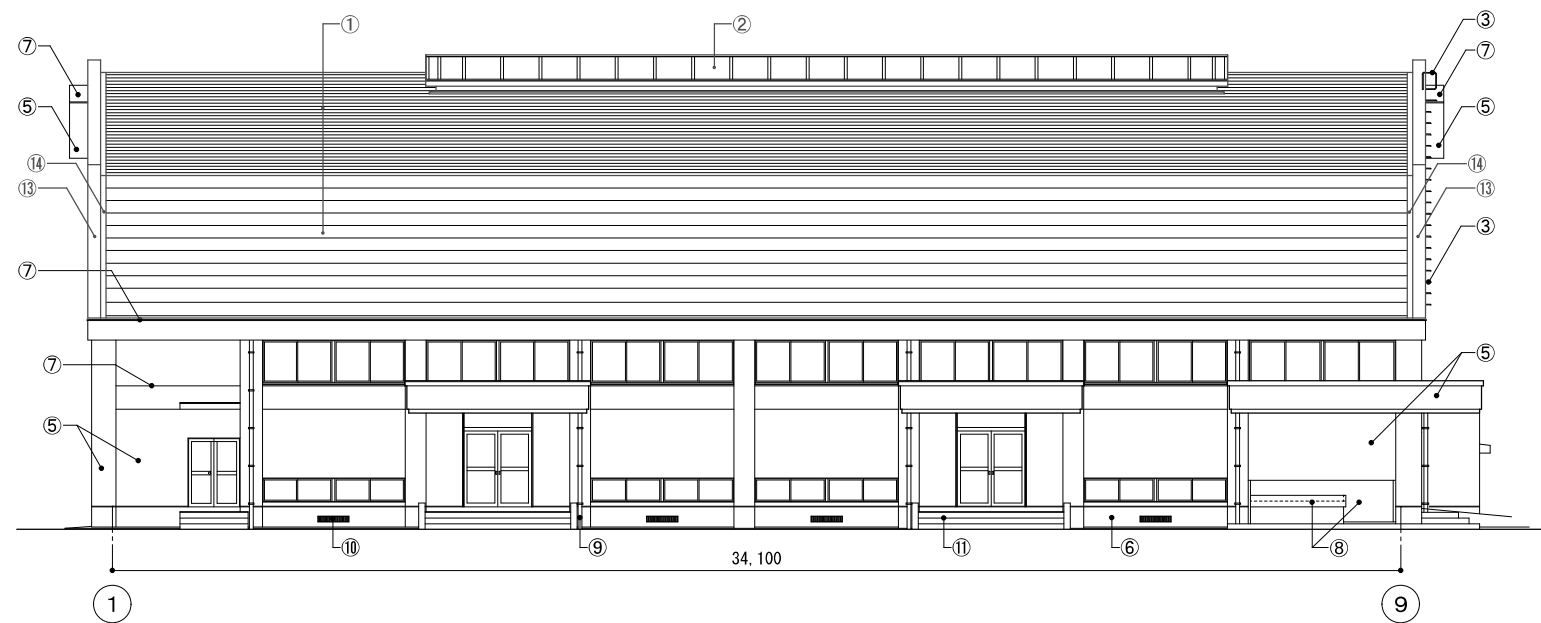
一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事		
	改修前 屋根伏図	A1: 1/75 A3: 1/150	A-07
	鹿児島市建設局建築部建築課		



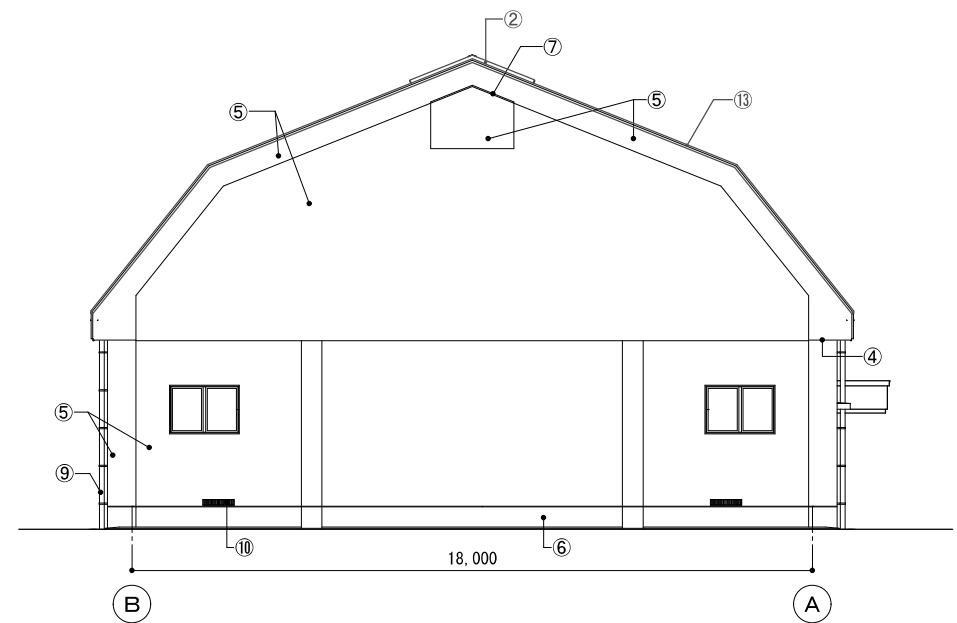
改修前 北面 立面図 S=1/200



改修前 西面 立面図 S=1/200



改修前 東面 立面図 S=1/200

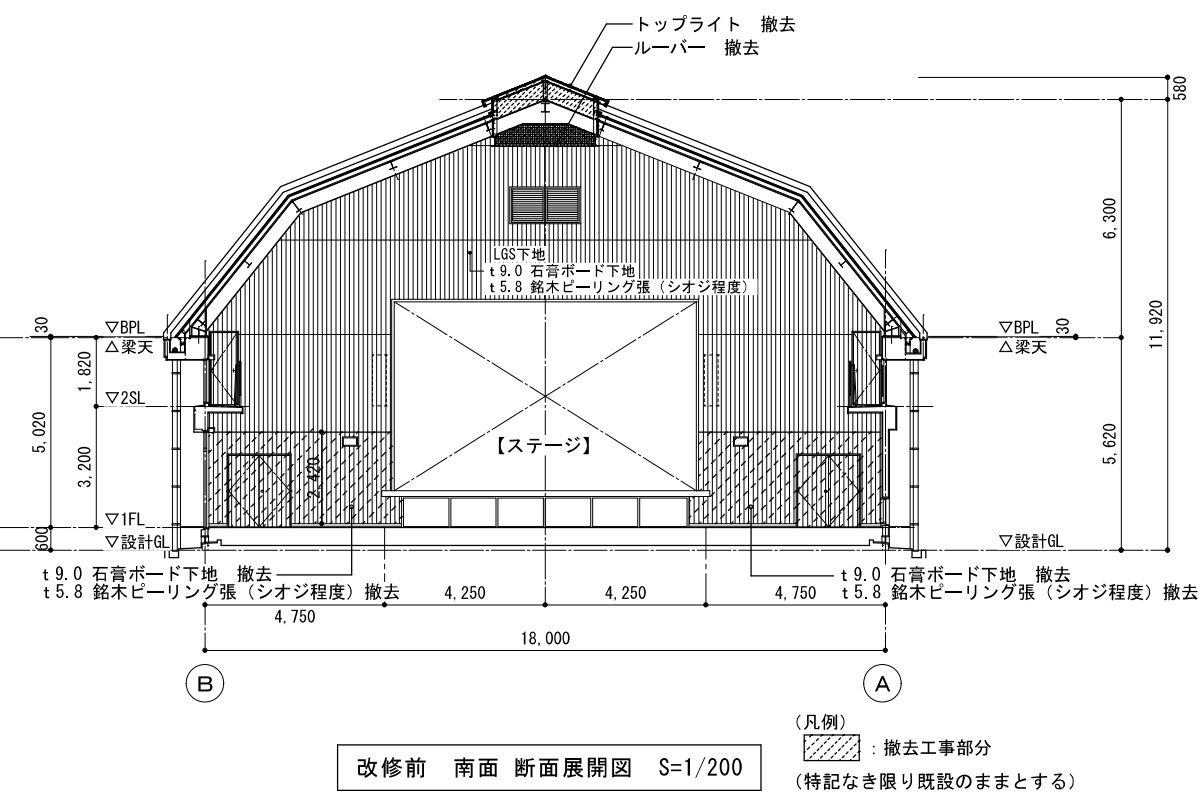
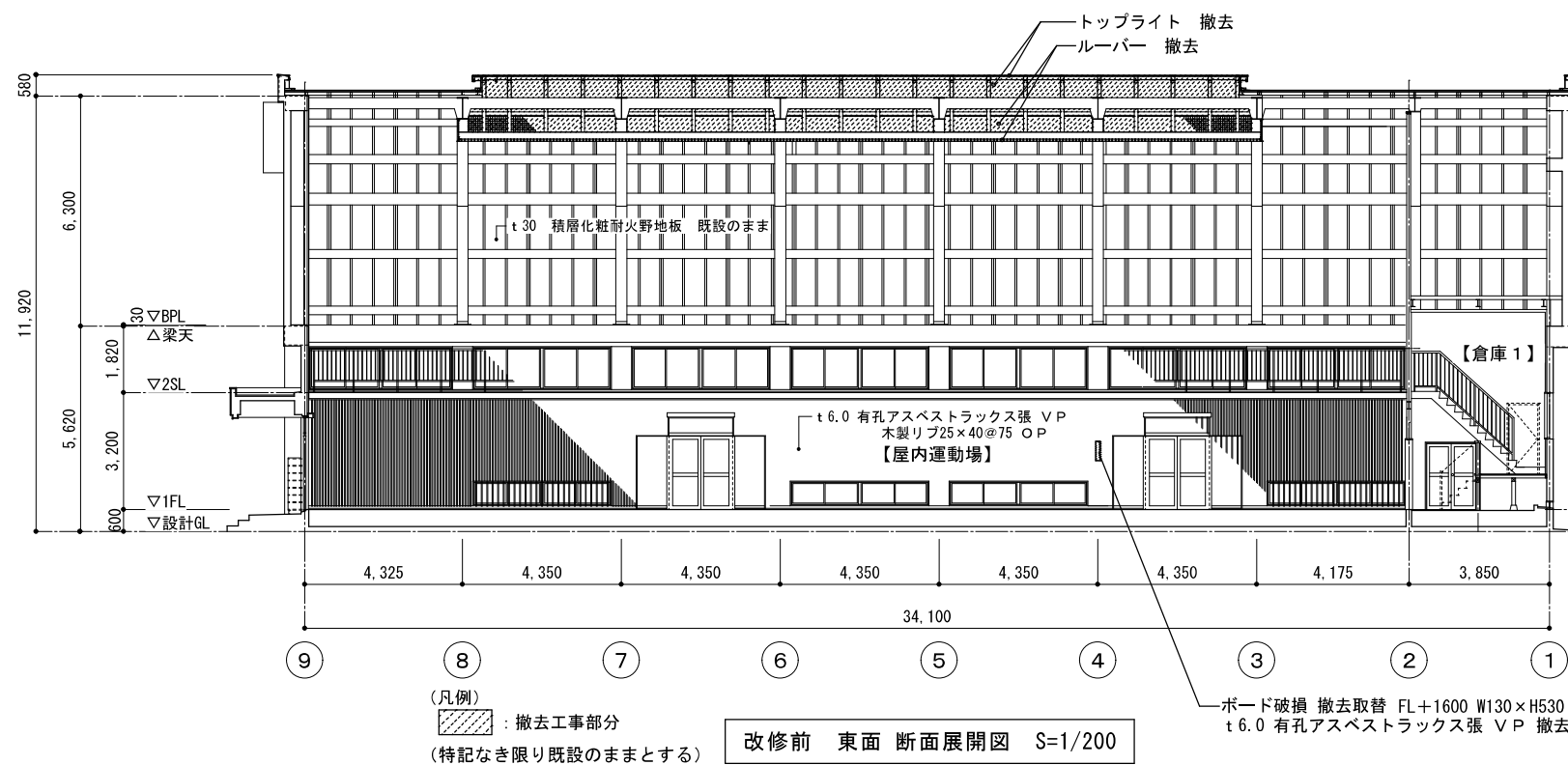
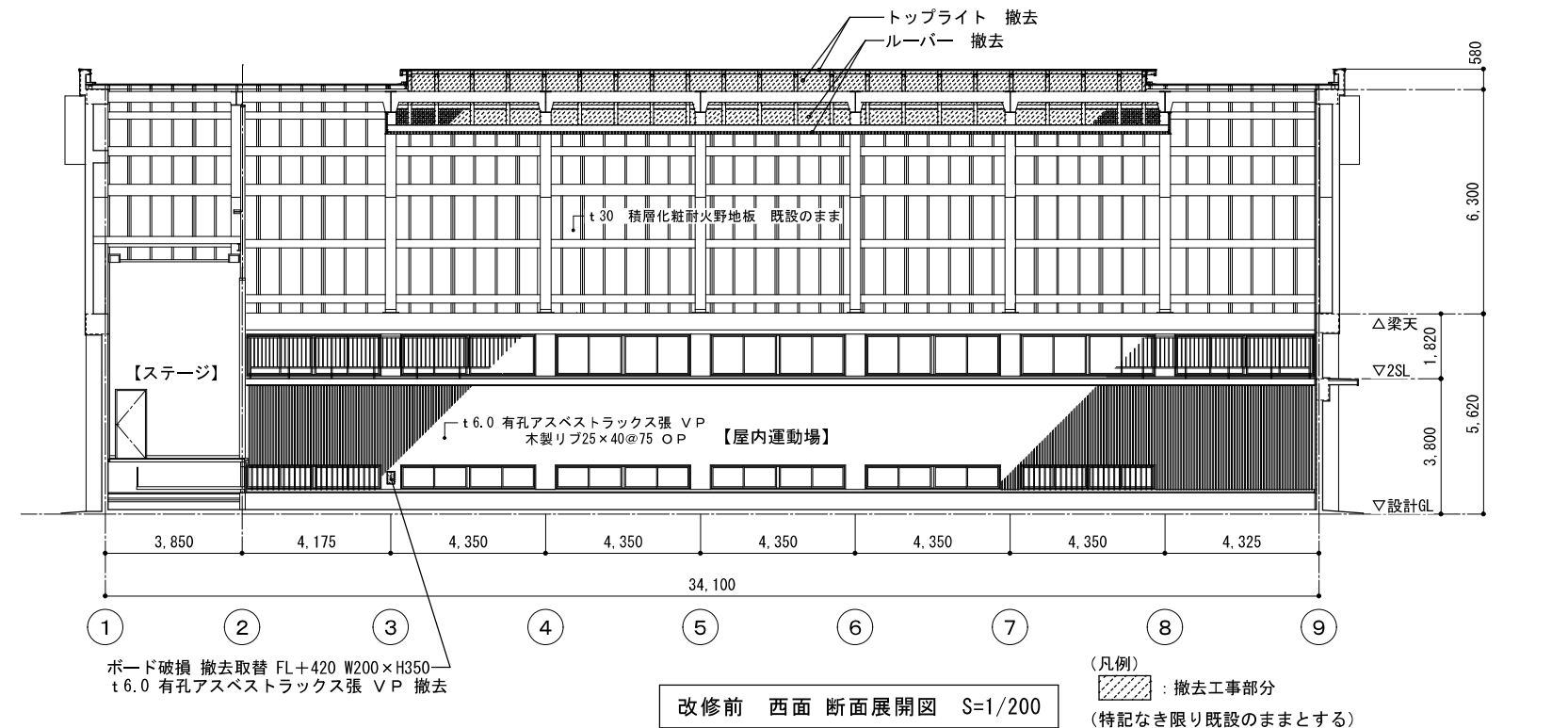
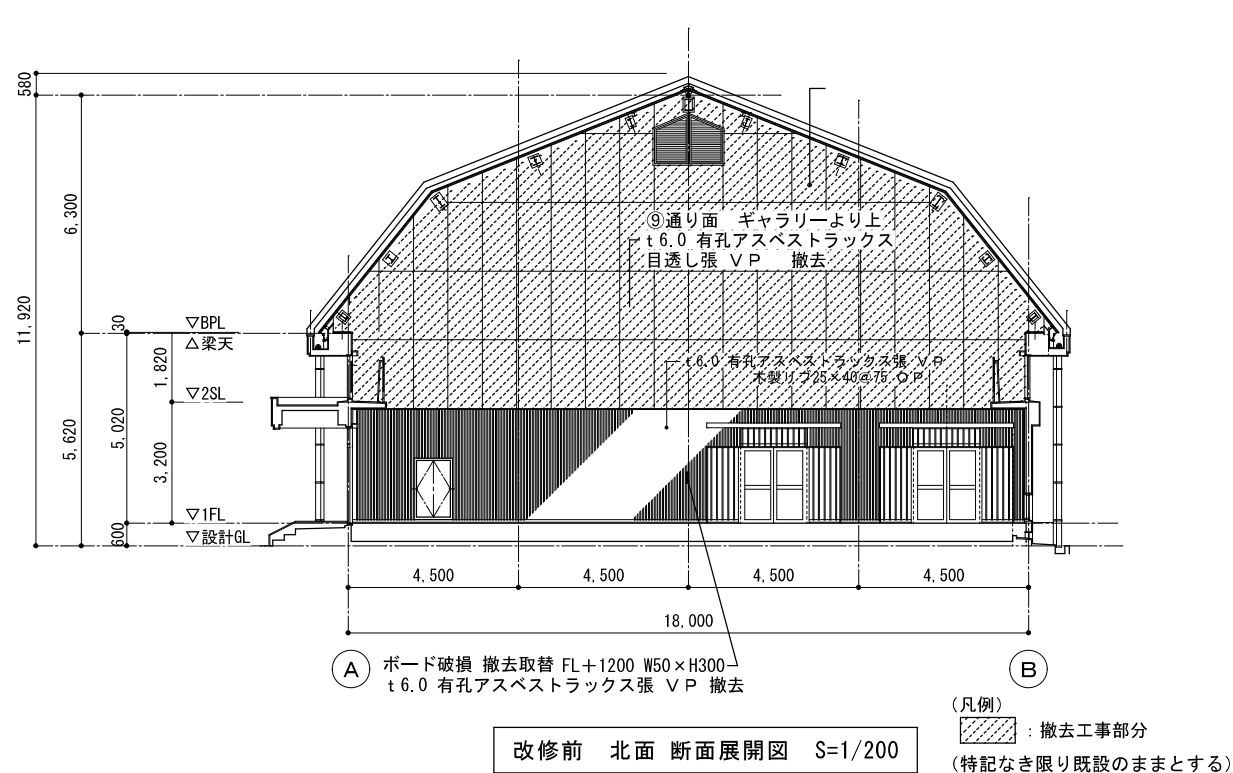


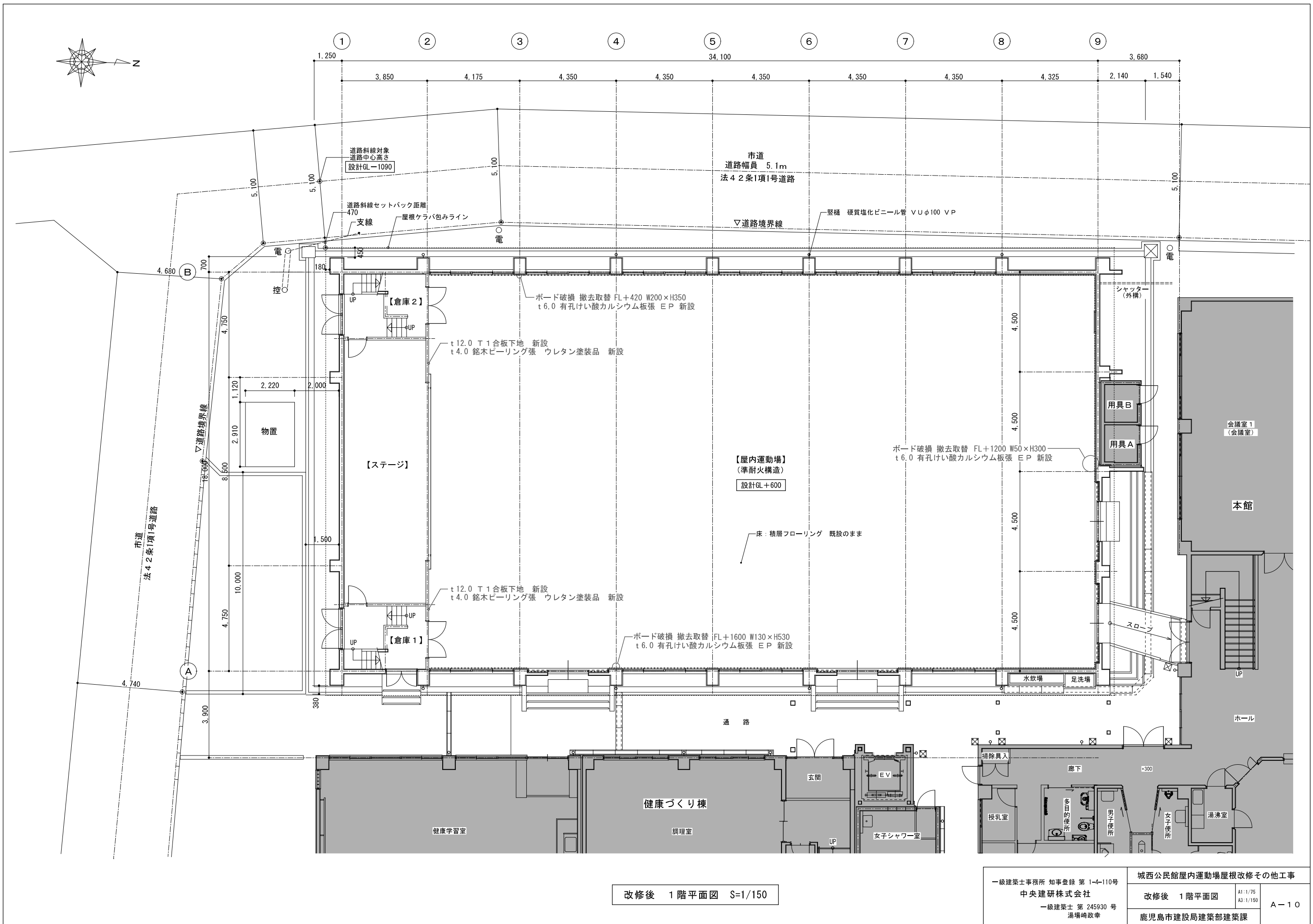
改修前 南面 立面図 S=1/200

外部仕上表 (特記なき限り既設のままとする)

番号	仕 上	番号	仕 上
①	t 0.4 横葺フッ素樹脂銅板 (カバー工法) 撤去	⑩	床下換気口: 鋳鉄製 O P
②	トップライト 撤去	⑪	ノンスリップタイル
③	ステンレスタラップ 19φ	⑫	二丁掛レンガタイル
④	コンクリート打放の上アクリルゴム系弾性吹付タイル	⑬	笠木: t 0.4 フッ素樹脂銅板 撤去
⑤	モルタル刷毛引アクリルゴム系弾性吹付タイル	⑭	ケラバ取合水切: t 0.4 フッ素樹脂銅板 撤去
⑥	モルタルコテ押え	⑮	E X P . J
⑦	防水モルタルコテ押えアクリルゴム系弾性吹付タイル		
⑧	人造石研出し		
⑨	硬質塩化ビニル管VU100φ V P		

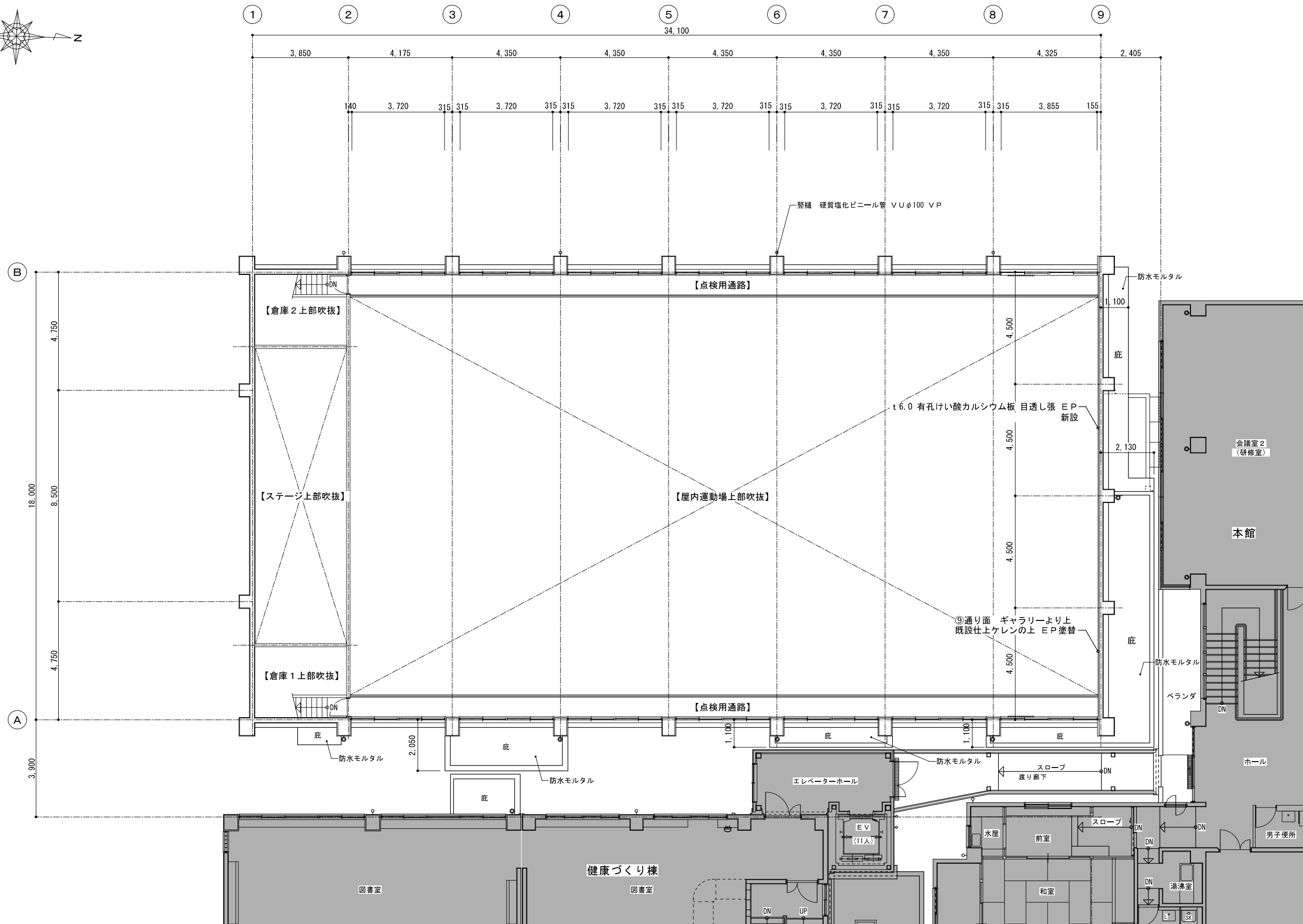
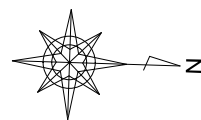
一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事		
	改修前 立面図	A1:1/100 A3:1/200	A-08
	鹿児島市建設局建築部建築課		





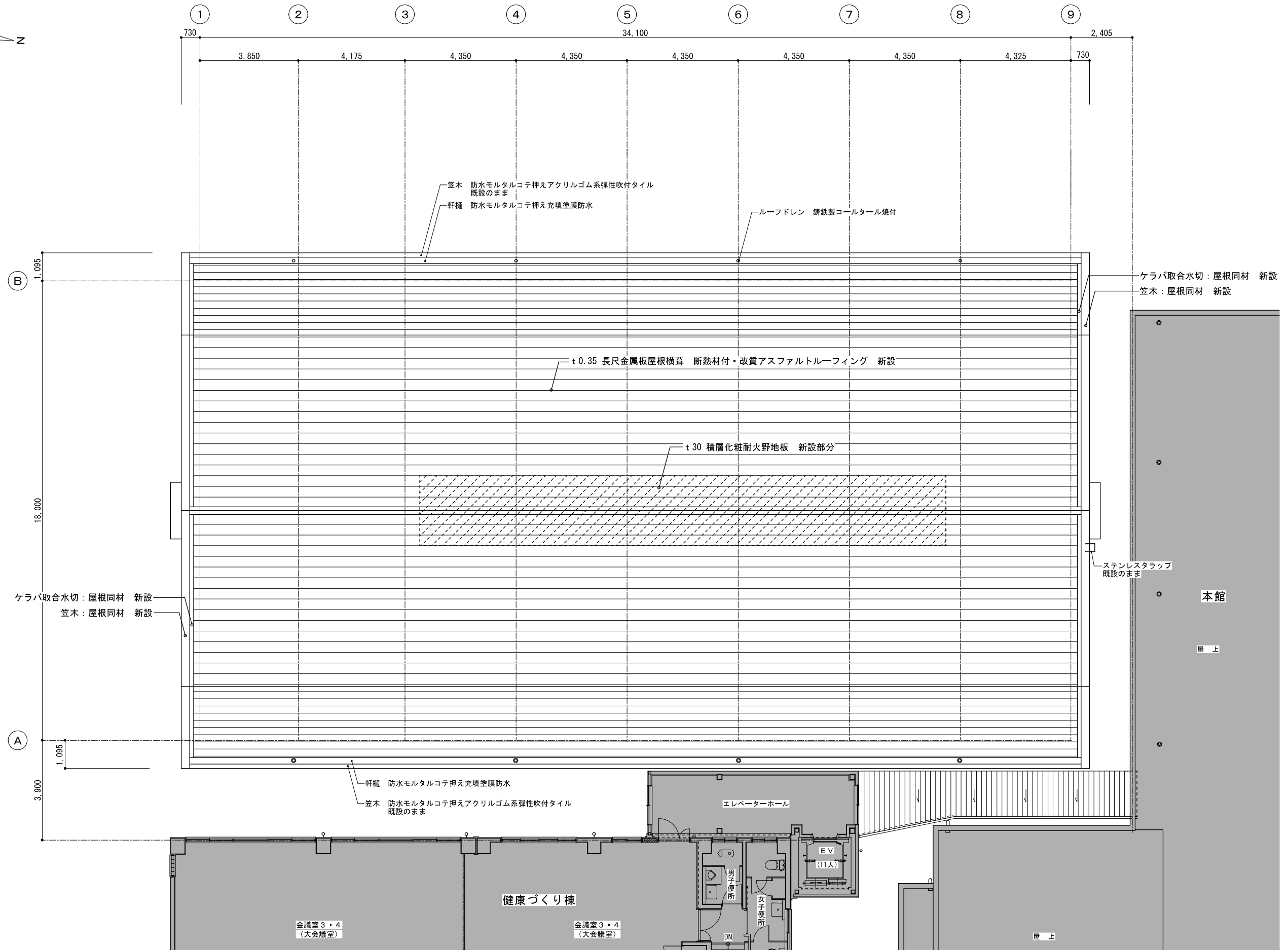
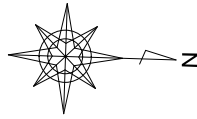
改修後 1階平面図 S=1/150

一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事		
	改修後 1階平面図	A1:1/75 A3:1/150	A-10
	鹿児島市建設局建築部建築課		

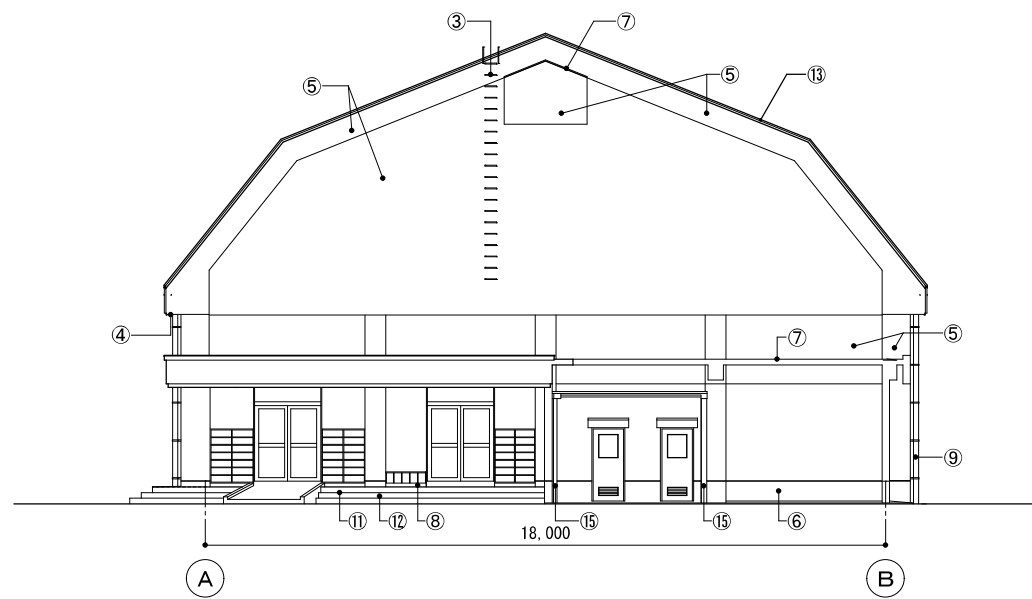


改修後 2 階平面図 S=1/150

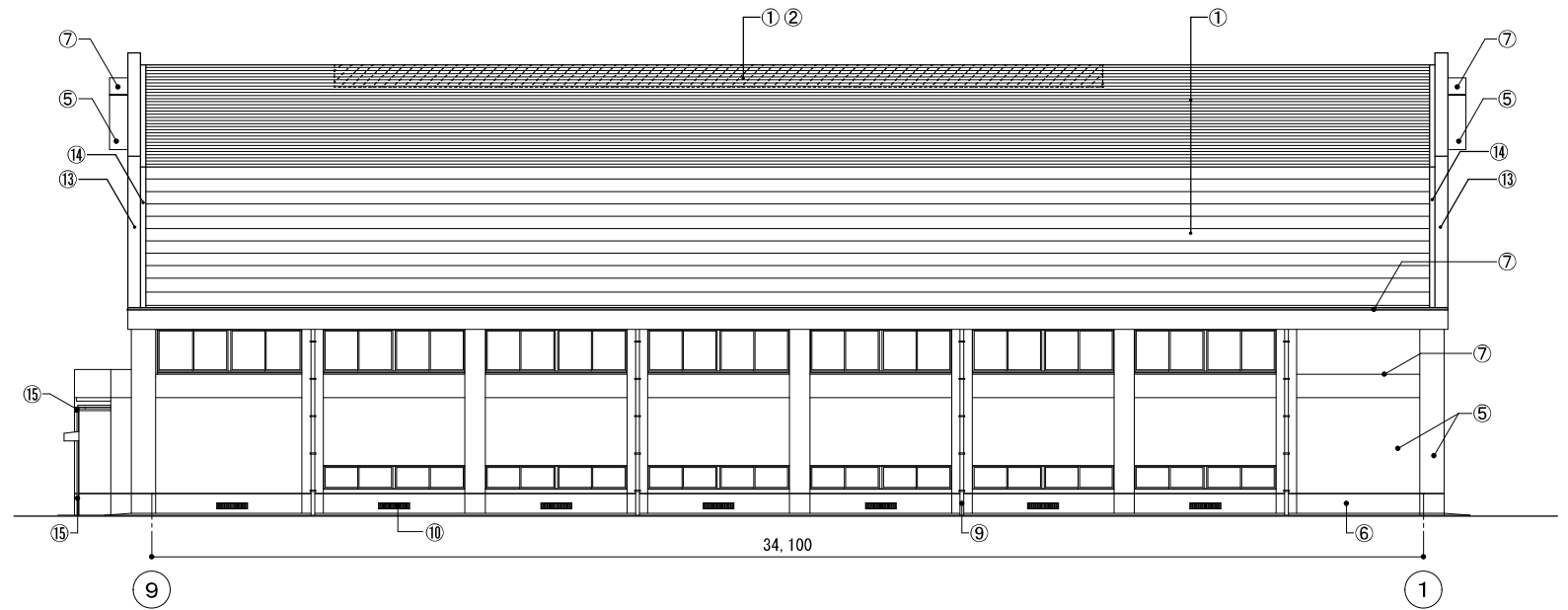
一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事		
	改修後 2階平面図	A1:1/75 A3:1/150	A－1 1
	鹿児島市建設局建築部建築課		



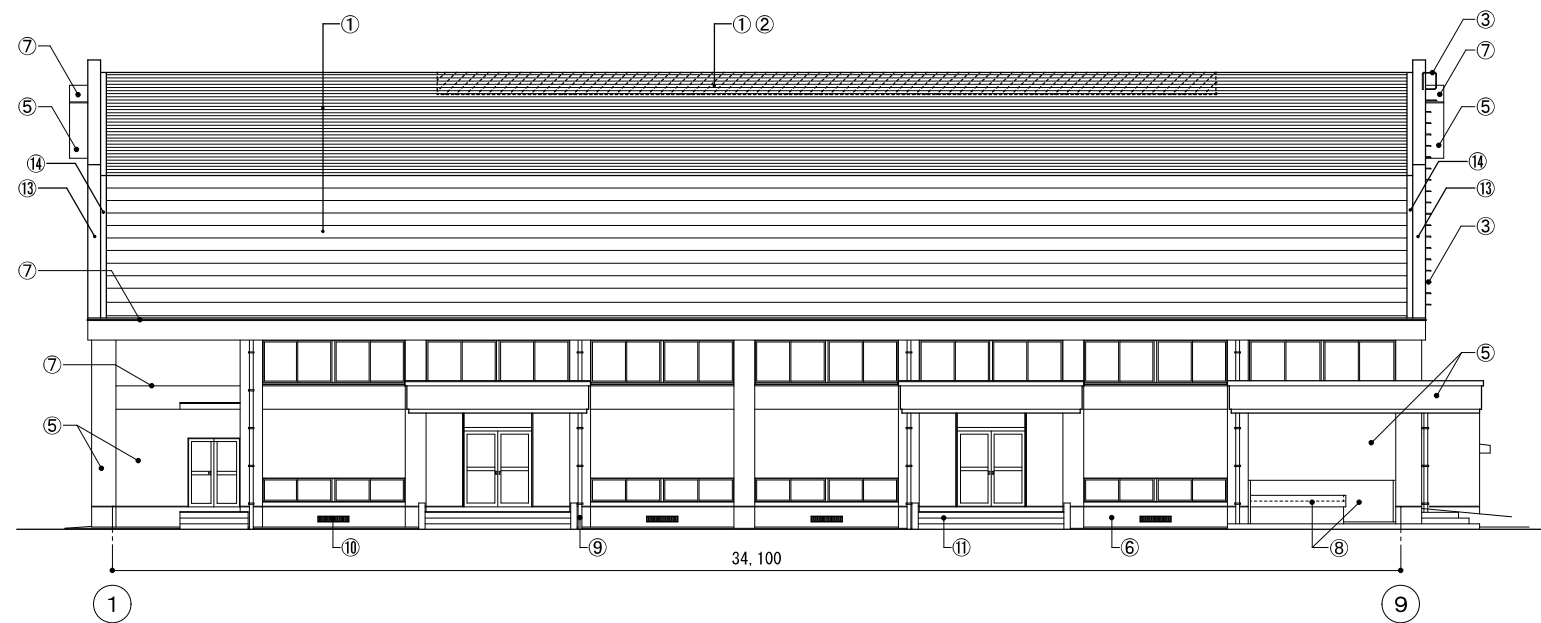
改修後 屋根伏図 S=1/150



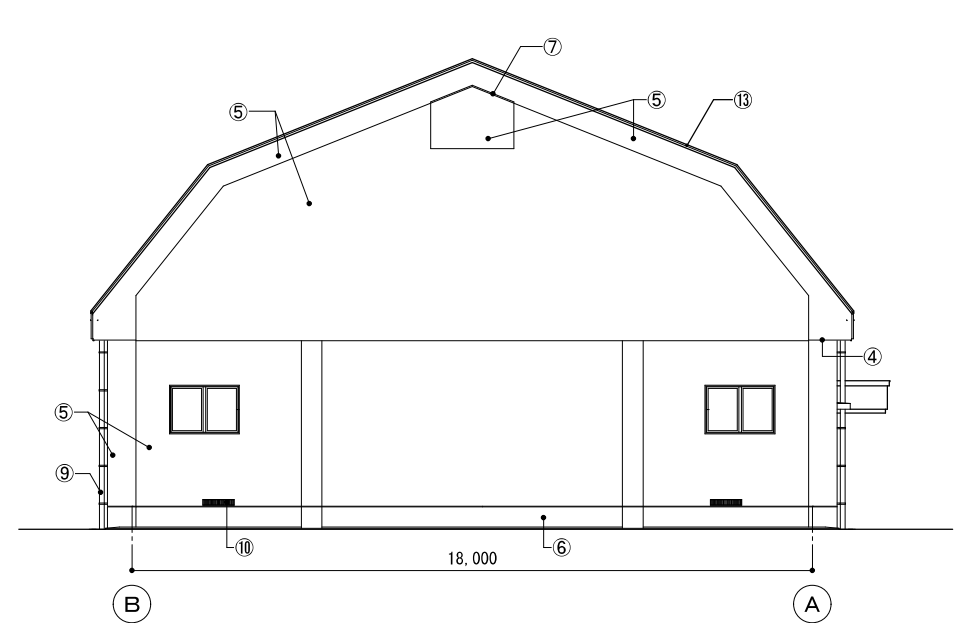
改修後 北面 立面図 S=1/200



改修後 西面 立面図 S=1/200



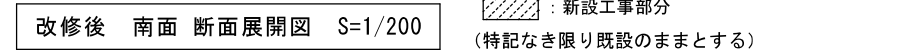
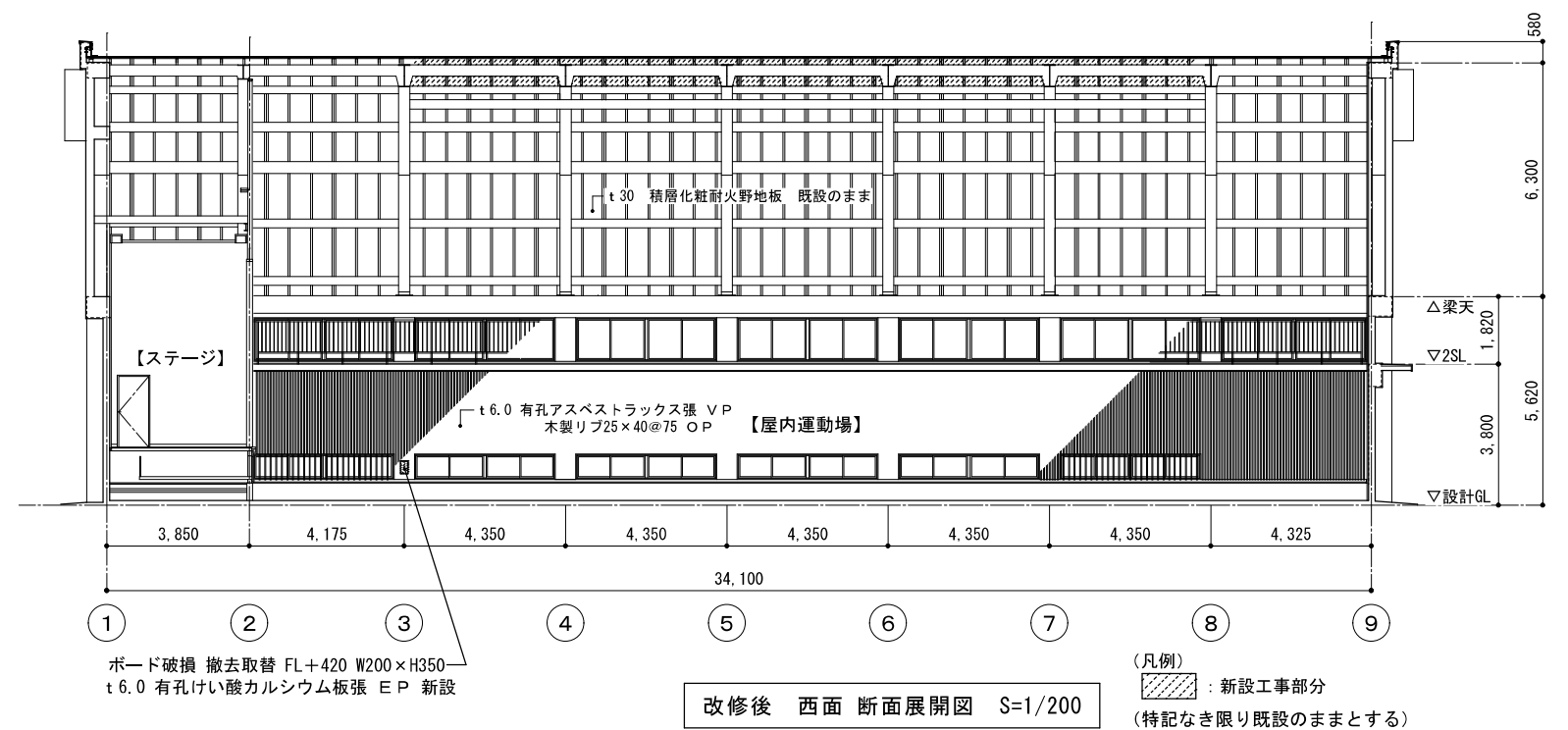
改修後 東面 立面図 S=1/200

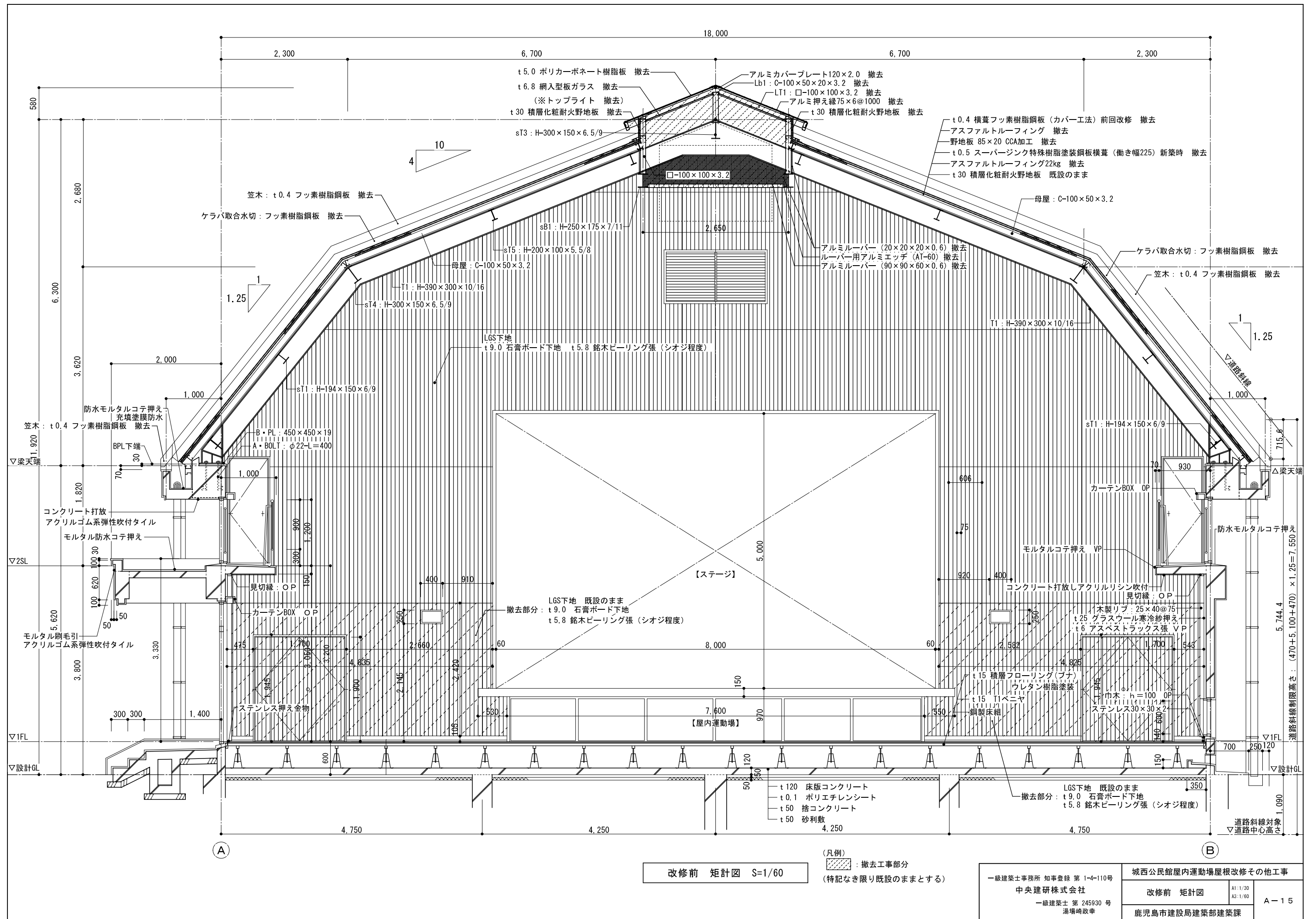


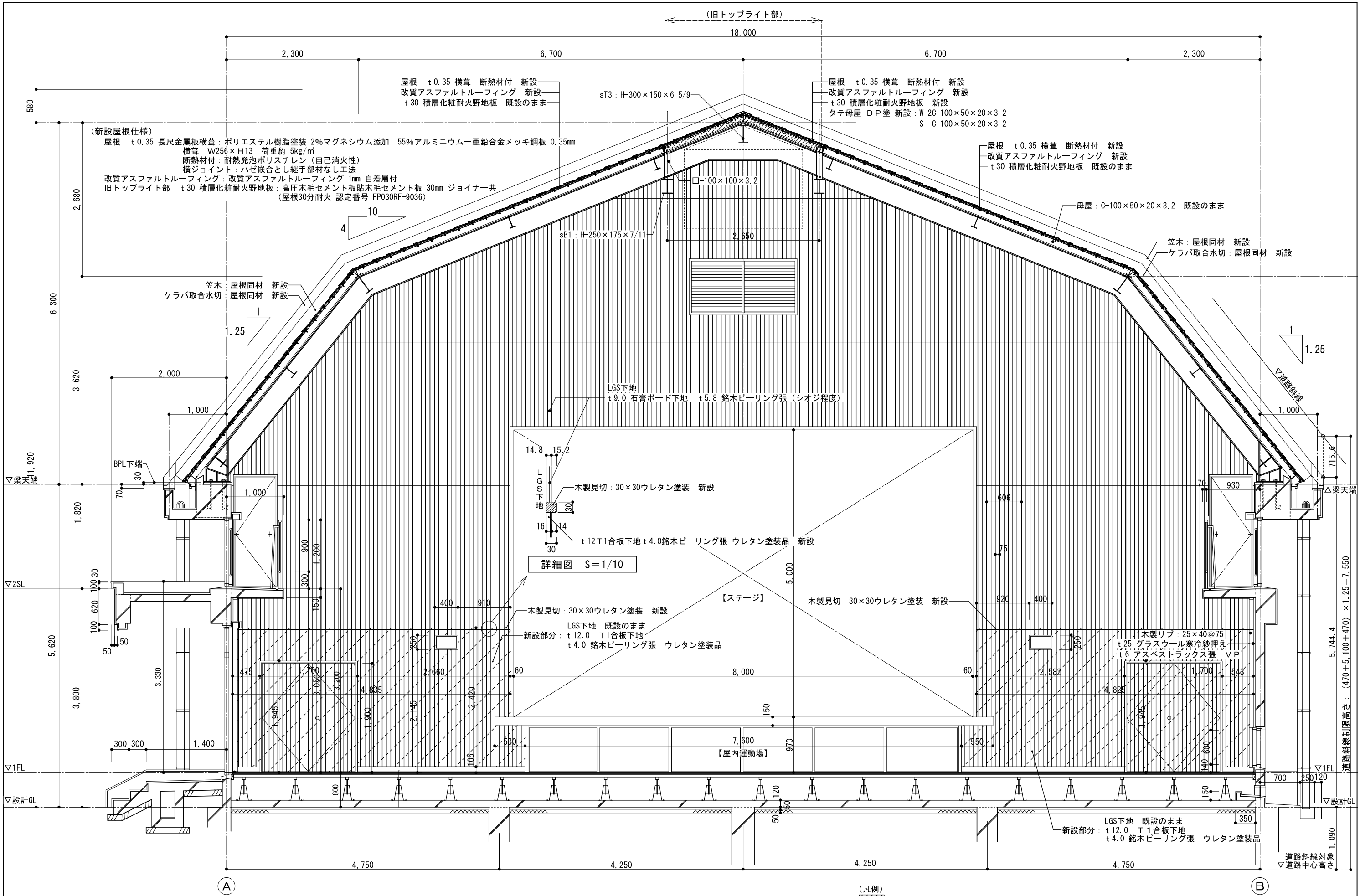
改修後 南面 立面図 S=1/200

外部仕上表 (特記なき限り既設のままとする)

番号	仕 上	番号	仕 上
①	t 0.35 長尺金属板屋根横葺 断熱材付・改質アスファルトルーフィング 新設	⑩	床下換気口：鋳鉄製 O P
②	t 30 積層化粧耐火野地板・タテ母屋 D P 塗 新設	⑪	ノンスリップタイル
③	ステンレスタラップ 19φ	⑫	二丁掛レンガタイル
④	コンクリート打放の上アクリルゴム系弾性吹付タイル	⑬	笠木：屋根同材 新設
⑤	モルタル刷毛引アクリルゴム系弾性吹付タイル	⑭	ケラバ取合水切：屋根同材 新設
⑥	モルタルコテ押え	⑮	E X P . J
⑦	防水モルタルコテ押えアクリルゴム系弾性吹付タイル		
⑧	人造石研出し		
⑨	硬質塩化ビニル管VU100φ V P		





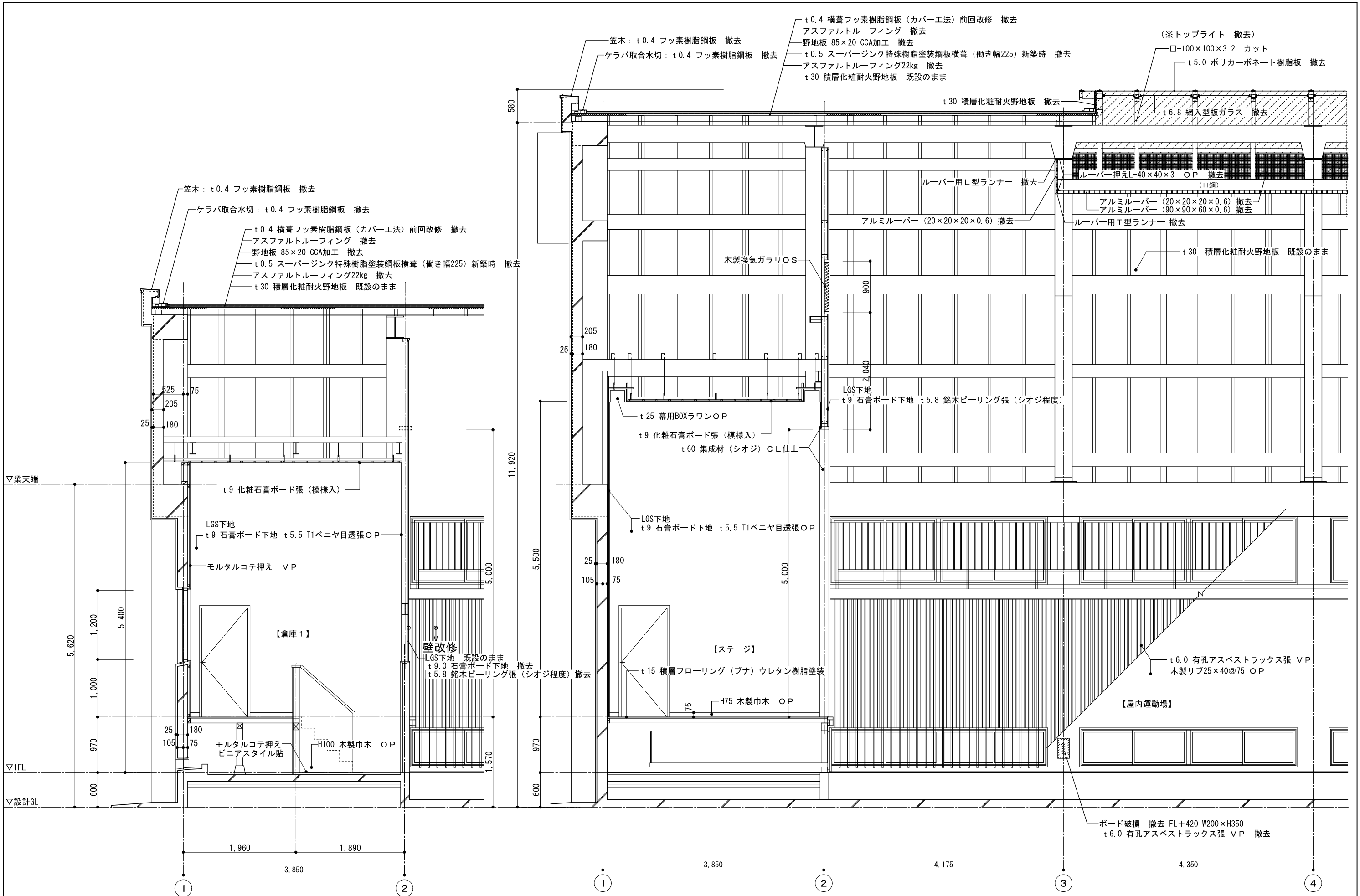


改修後 矩計図 S=1/60

(凡例)
[Hatched Box] : 新設工事部分
(特記なき限り既設のままとする)

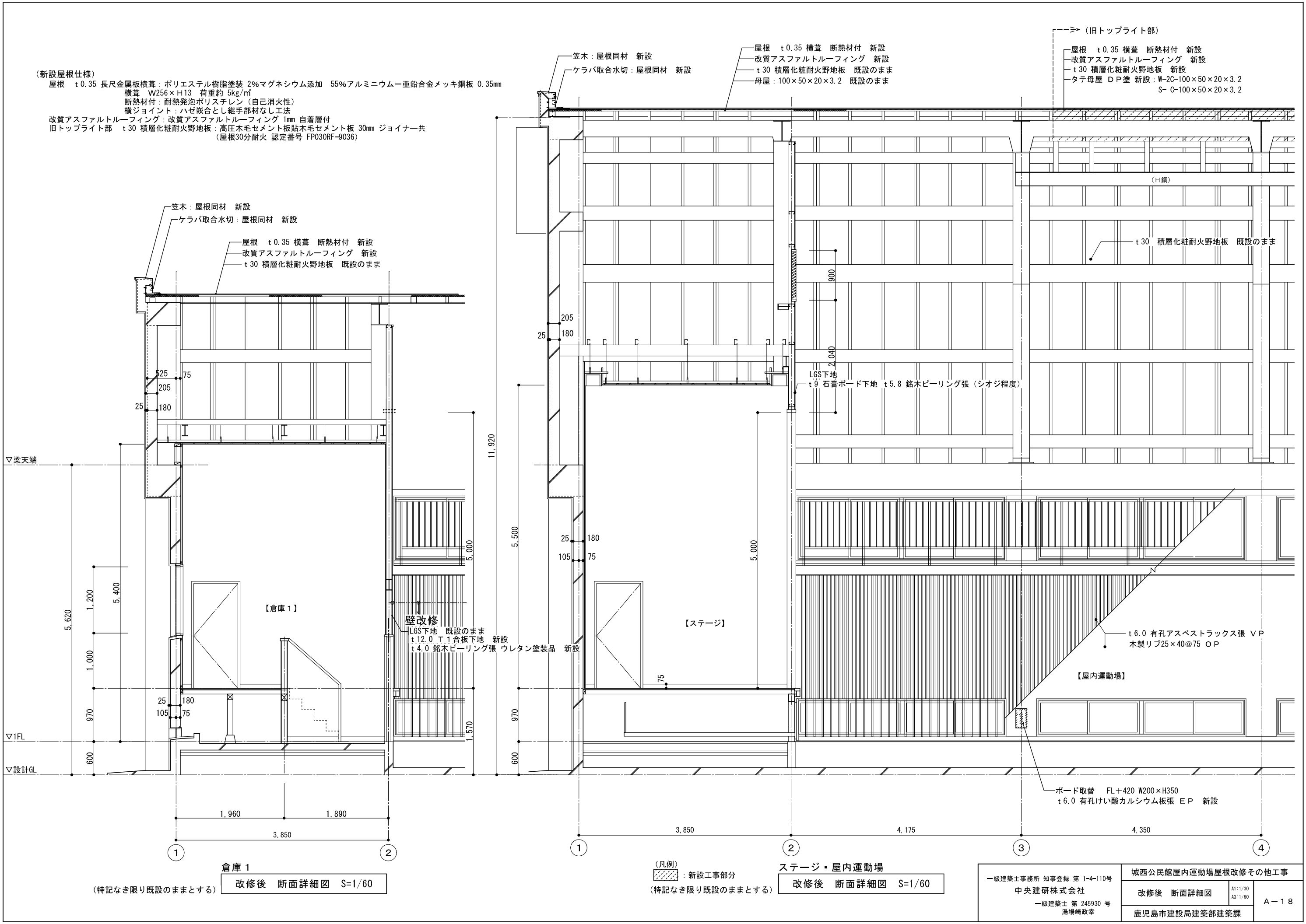
一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号
中央建研株式会社
一級建築士 第 245930 号
湯嶋崎政幸

城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事
改修後 矩計図
A1:1/30
A3:1/60
A-16
鹿児島市建設局建築部建築課



倉庫 1
改修前 断面詳細図 S=1/60
(特記なき限り既設のままとする)

(凡例)
[Hatched Box] : 撤去工事部分
(特記なき限り既設のままとする)
ステージ・屋内運動場
改修前 断面詳細図 S=1/60



(新設屋根仕様)
屋根 t 0.35 長尺金属板横葺：ポリエステル樹脂塗装 2%マグネシウム添加 55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ銅板 0.35mm
横葺 W256×H13 荷重約 5kg/m²
断熱材付：耐熱発泡ポリスチレン (自己消火性)
横ジョイント：ハゼ嵌合とし継手部材なし工法
改質アスファルトルーフィング：改質アスファルトルーフィング 1mm 自着層付
旧トップライト部 t 30 積層化粧耐火野地板：高圧木毛セメント板貼木毛セメント板 30mm ジョイナー共
(屋根30分耐火 認定番号 FP030RF-9036)

笠木：屋根同材 新設
ケラバ取合水切：屋根同材 新設
屋根 t 0.35 横葺 断熱材付 新設
改質アスファルトルーフィング 新設
t 30 積層化粧耐火野地板 既設のまま
母屋：100×50×20×3.2 既設のまま

→ (旧トップライト部)
屋根 t 0.35 横葺 断熱材付 新設
改質アスファルトルーフィング 新設
t 30 積層化粧耐火野地板 新設
タテ母屋 D P 塗 新設：W-20-100×50×20×3.2
S- C-100×50×20×3.2

笠木：屋根同材 新設
ケラバ取合水切：屋根同材 新設
屋根 t 0.35 横葺 断熱材付 新設
改質アスファルトルーフィング 新設
t 30 積層化粧耐火野地板 既設のまま

LGS下地
t 9 石膏ボード下地 t 5.8 銘木ピーリング張 (シオジ程度)

t 30 積層化粧耐火野地板 既設のまま

壁改修
LGS下地 既設のまま
t 12.0 T 1 合板下地 新設
t 4.0 銘木ピーリング張 ウレタン塗装品 新設

t 6.0 有孔アスベストラックス張 V P
木製リブ25×40@75 O P

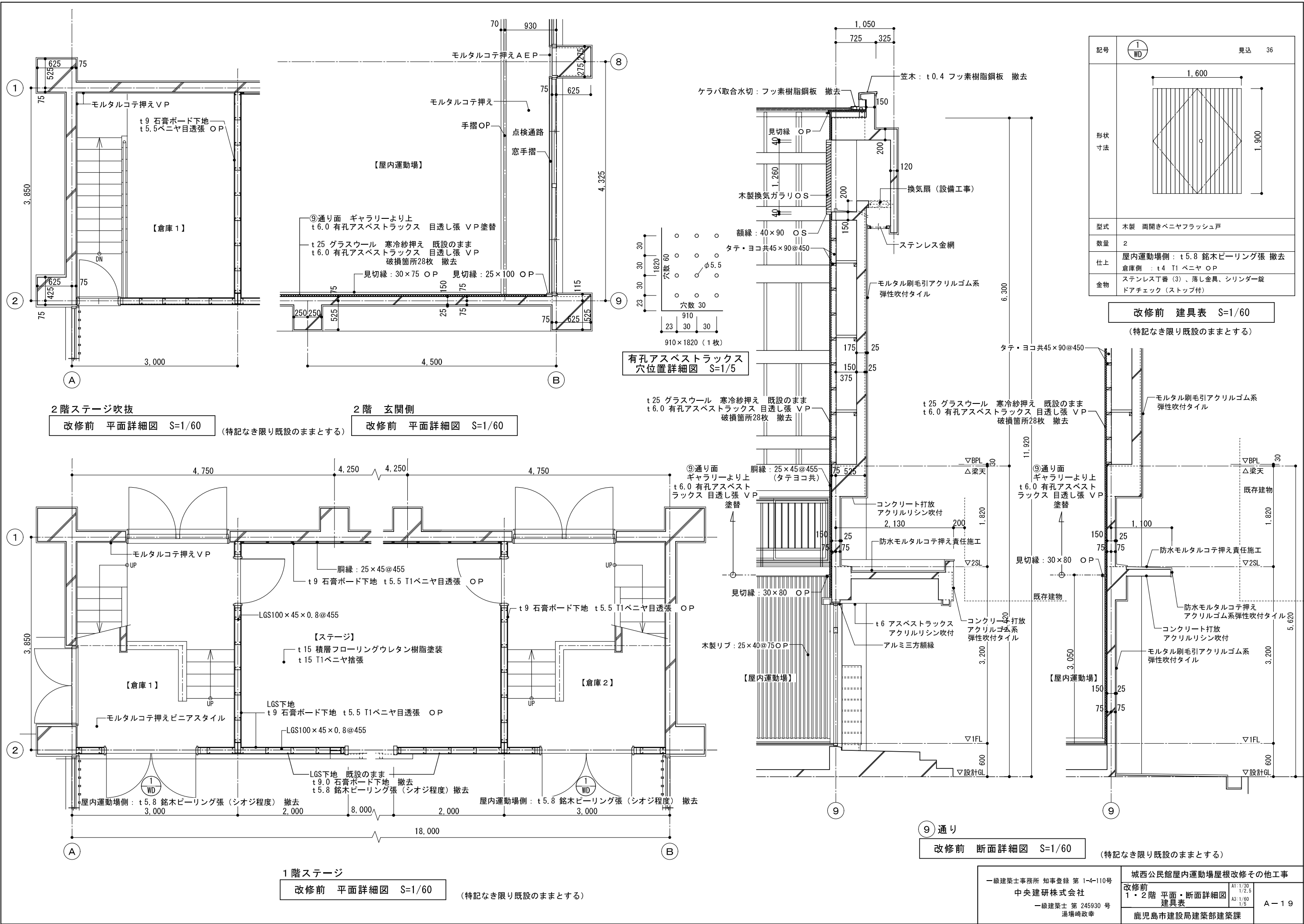
ボード取替 FL+420 W200×H350
t 6.0 有孔けい酸カルシウム板張 E P 新設

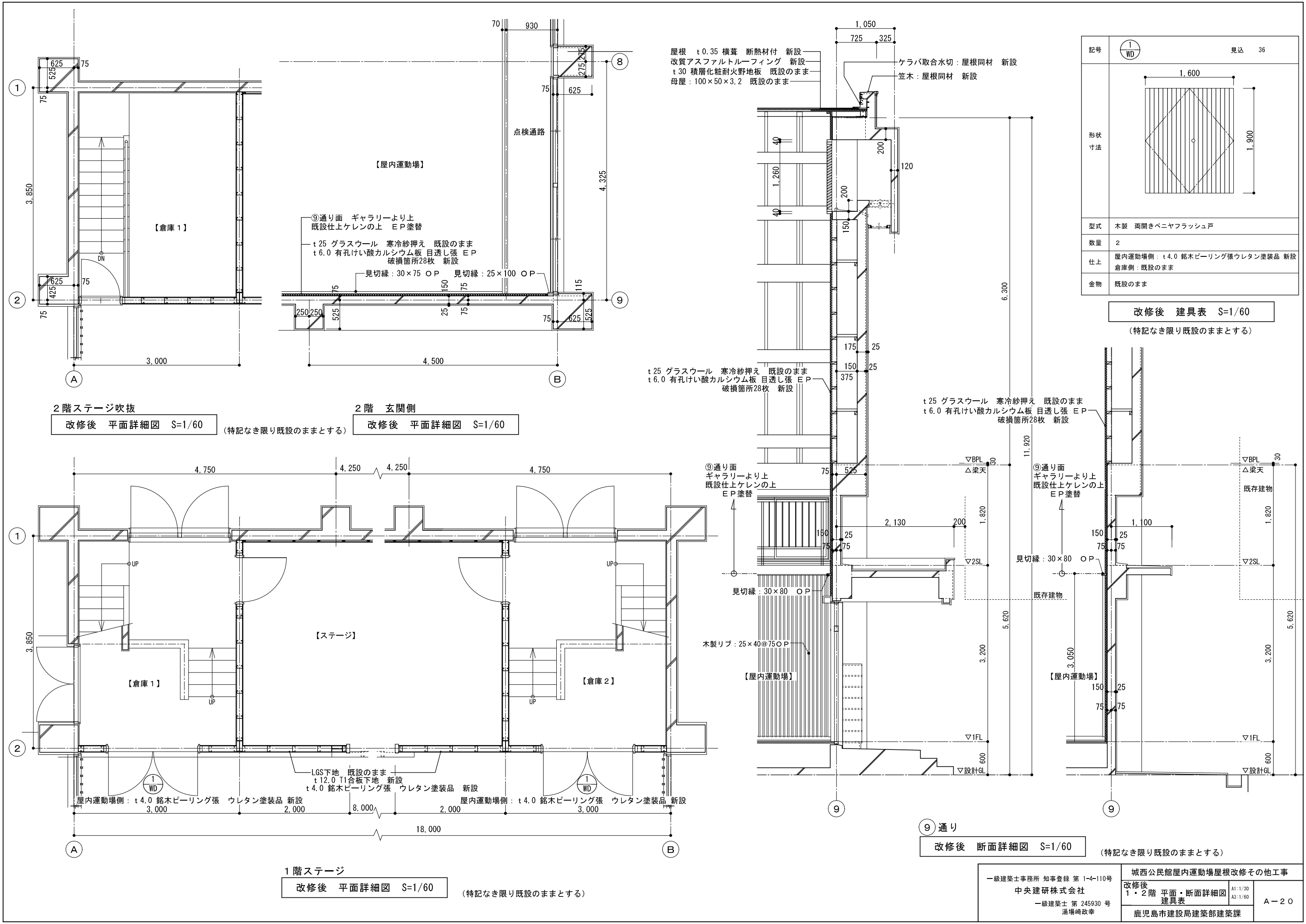
倉庫 1
改修後 断面詳細図 S=1/60
(特記なき限り既設のままとする)

(凡例)
[Hatched Box] : 新設工事部分
(特記なき限り既設のままとする)

ステージ・屋内運動場
改修後 断面詳細図 S=1/60

一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸		城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事	
改修後 断面詳細図		A1:1/30 A3:1/60	A-18
鹿児島市建設局建築部建築課			



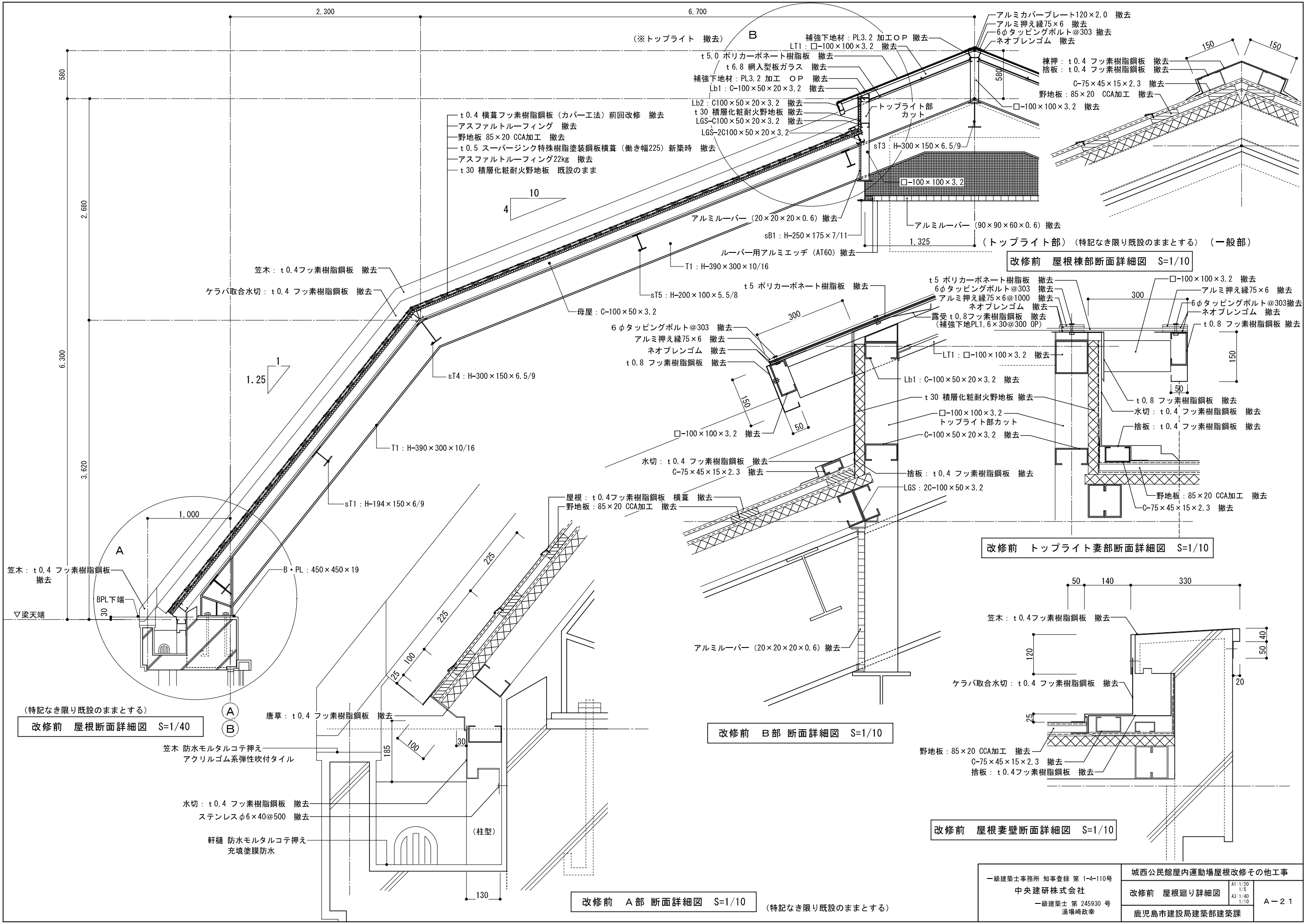


記号	① WD	見込	36
形状 寸法			
型式	木製 両開きベニヤフラッシュ戸		
数量	2		
仕上	屋内運動場側：t 4.0 銘木ビーリング張ウレタン塗装品 新設 倉庫側：既設のまま		
金物	既設のまま		

改修後 建具表 S=1/60
(特記なき限り既設のままとする)

⑨ 通り
改修後 断面詳細図 S=1/60
(特記なき限り既設のままとする)

一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号 中央建研株式会社 一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事 改修後 1・2階 平面・断面詳細図 建具表 鹿児島市建設局建築部建築課	A1:1/30 A3:1/60 A-20
---	---	----------------------------

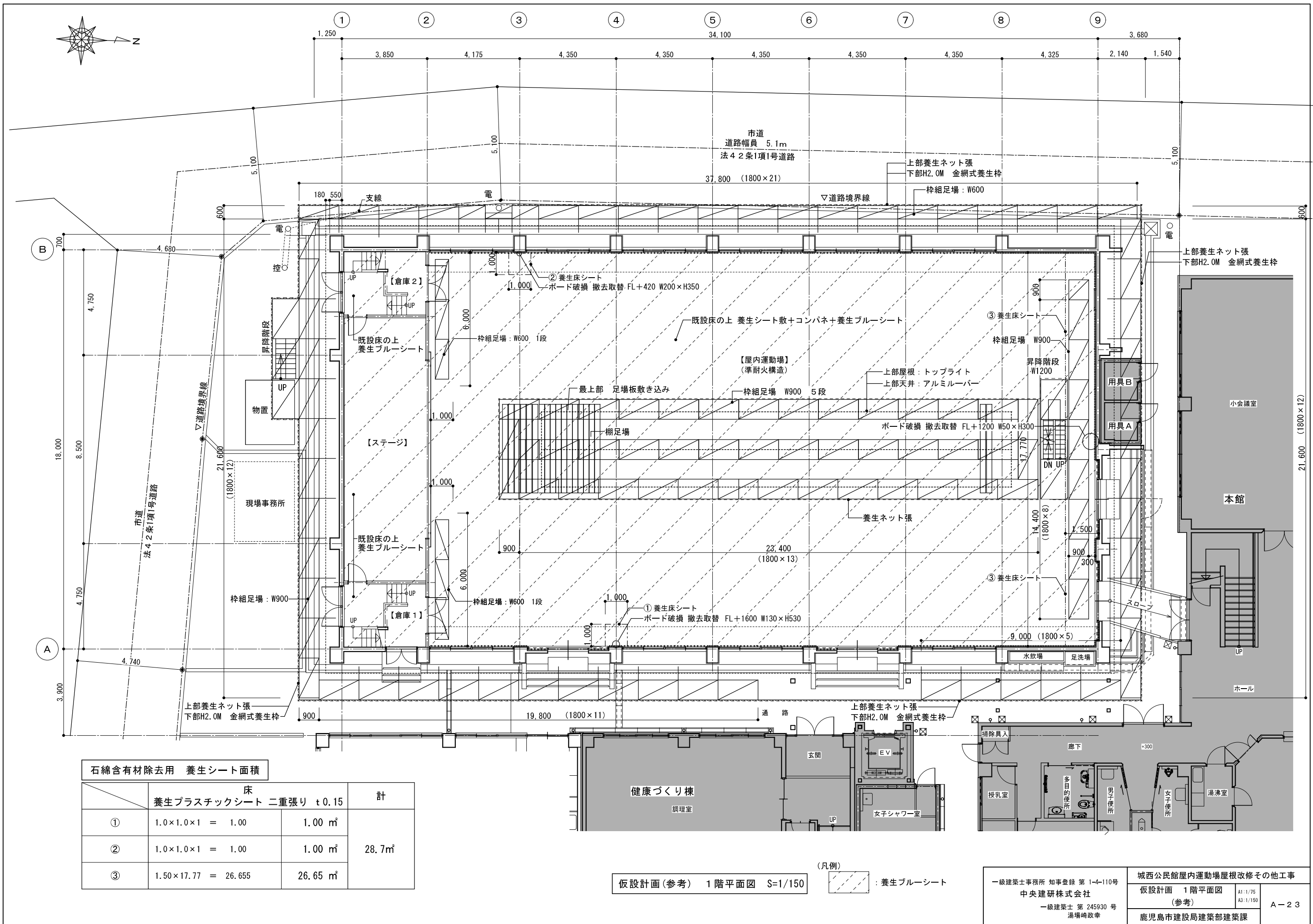


改修前 A部 断面詳細図 S=1/10

(特記なき限り既設のままとする)

一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号	城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事
中央建研株式会社	改修前 屋根廻り詳細図
一級建築士 第 245930 号 湯嶋崎政幸	A1: 1/20 1/5 A3: 1/40 1/10

鹿児島市建設局建築部建築課	A-2 1
---------------	-------

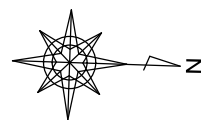


石綿含有材除去用 養生シート面積

	床 養生プラスチックシート 二重張り t 0.15		計
①	1.0×1.0×1 = 1.00	1.00 m ²	28.7m ²
②	1.0×1.0×1 = 1.00	1.00 m ²	
③	1.50×17.77 = 26.655	26.65 m ²	

仮設計画(参考) 1階平面図 S=1/150

(凡例)
養生ブルーシート



市道
法42条1項1号道路

▽道路境界線

桝組足場：W900

養生ネット張

会議室

健康づくり棟

会議室

エレベーターホール

男子便所

女子便所

EV

(11人)

屋上

本館

屋上

※屋根工事特記事項

(踏抜き防止)

既設野地板には直に乗らない事

作業は道板敷の上で行う事

周囲に十分配慮し二人以上で行う事

(雨水等対策)

屋根材撤去後は建物内への漏水

対策をする事

養生方法、養生期間等は事前に

監督員に報告する事

仮設計画(参考) 屋根伏図 S=1/150

一級建築士事務所 知事登録 第 1-4-110号

中央建研株式会社

一級建築士 第 245930 号

湯嶋崎政幸

城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事

仮設計画 屋根伏図

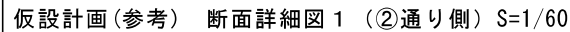
(参考)

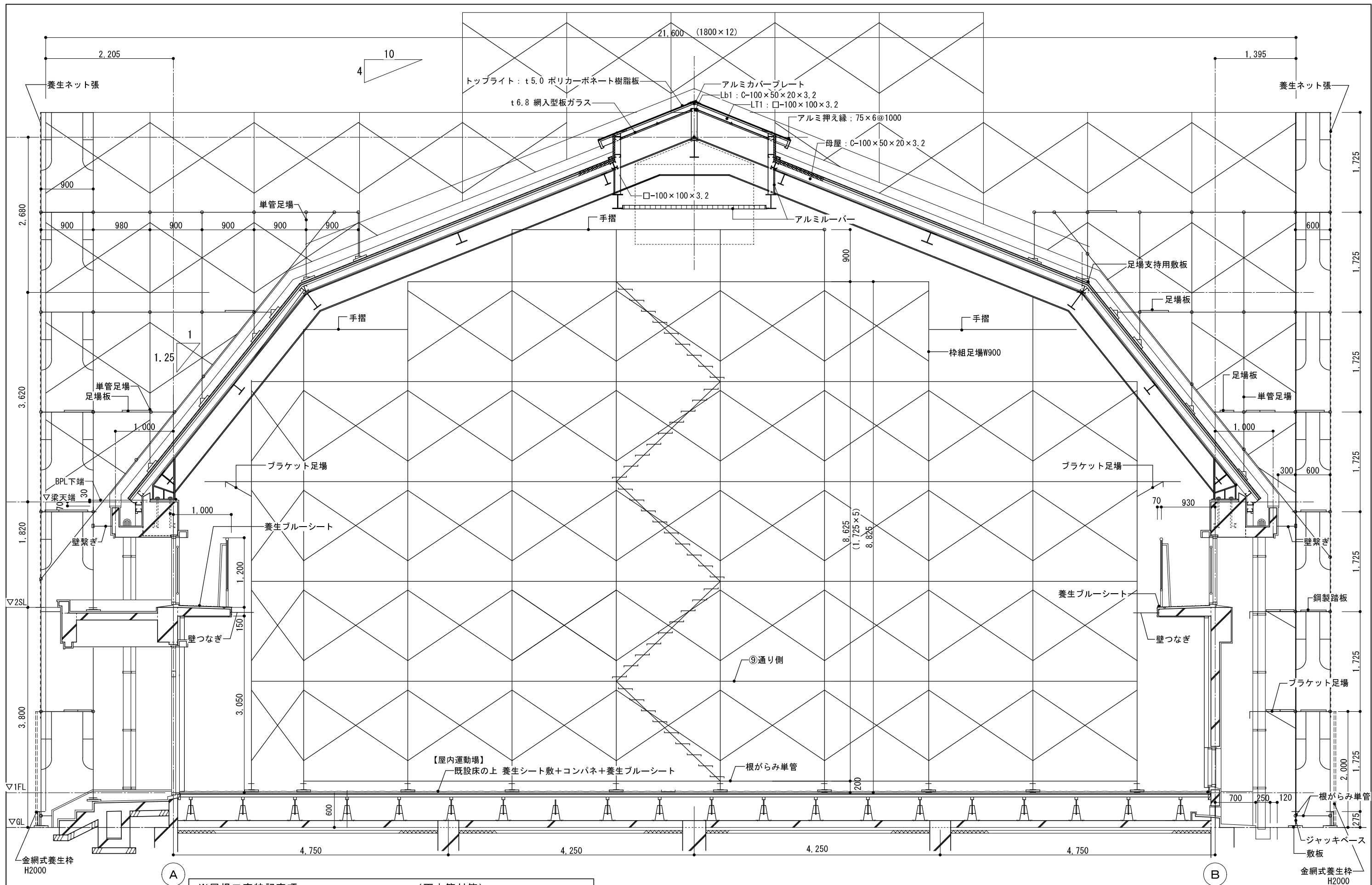
鹿児島市建設局建築部建築課

A1:1/75

A3:1/150

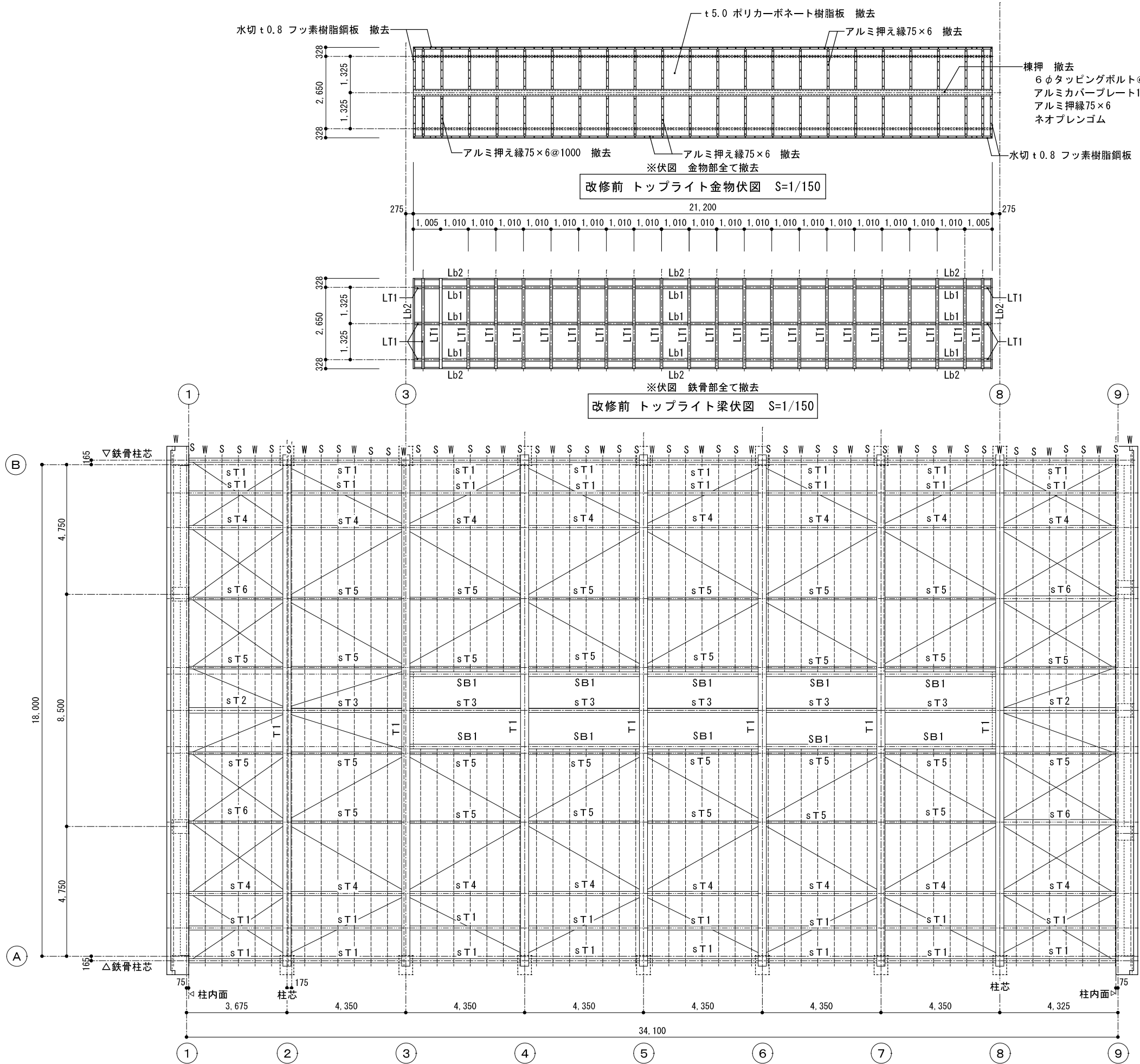
A-25





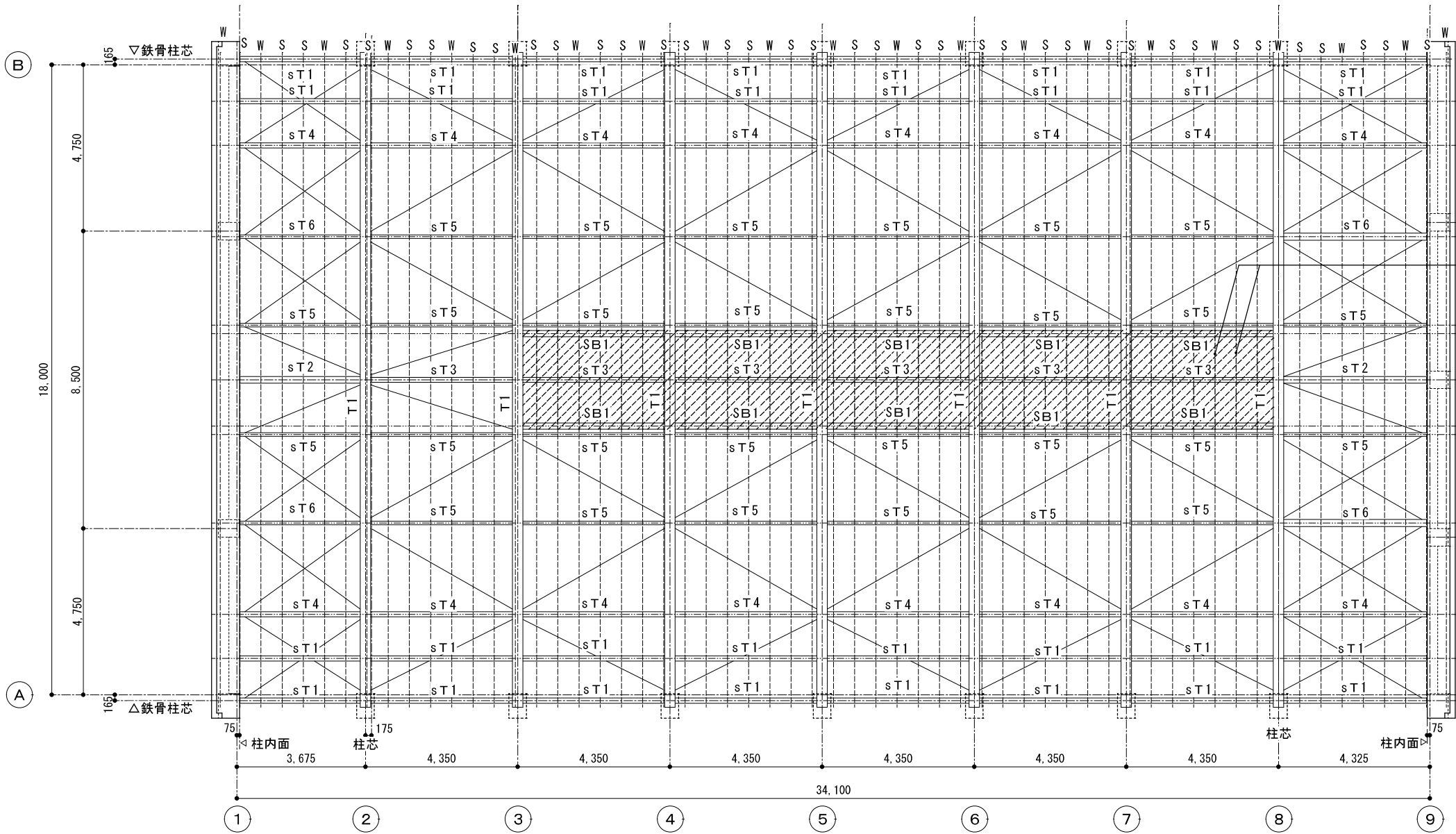
※屋根工事特記事項 (雨水等対策)
(踏抜き防止)
既設野地板には直に乗らない事
作業は道板敷の上で行う事
周囲に十分配慮し二人以上で行う事
(雨水等対策)
屋根材撤去後は建物内への漏水
対策をする事
養生方法、養生期間等は事前に
監督員に報告する事

仮設計画(参考) 断面詳細図2 (⑨通り側) S=1/60



部 材 リ ス ト (特記なき限り既設のままとする)

記号	形状	断面リスト
T 1		H-390×300×10/16
s T 1		H-194×150×6/9
s T 2		H-294×200×8/12
s T 3 s T 4		H-300×150×6.5/9
s T 5		H-200×100×5.5/8
s T 6		H-200×200×8/12
s B 1		H-250×175×7/11
LT 1		□-100×100×3.2 撤去
Lb1		1C-100×50×20×3.2 撤去
Lb2		1C-100×50×20×3.2 撤去
ブレース		L-50×50×6
タテ母屋		w 2C-100×50×20×3.2 s 1C-100×50×20×3.2



タテ母屋 D P 塗 新設: W-2C-100×50×20×3.2
S- C-100×50×20×3.2

部 材 リ ス ト (特記なき限り既設のままとする)

記号	形状	断面リスト
T 1		H-390×300×10/16
s T 1		H-194×150×6/9
s T 2		H-294×200×8/12
s T 3 s T 4		H-300×150×6.5/9
s T 5		H-200×100×5.5/8
s T 6		H-200×200×8/12
s B 1		H-250×175×7/11
ブレース		L-50×50×6
タテ母屋 既設	 	w 2C-100×50×20×3.2 s 1C-100×50×20×3.2
タテ母屋 新設	 	w 2C-100×50×20×3.2 s 1C-100×50×20×3.2

(凡例)
: 新設母屋工事部分
(特記なき限り既設のままとする)

改修後 鉄骨屋根梁伏図 S=1/150

章適用項目特記事項

1

各章共通事項

2

仮設工事

3

防水工事

4

タイル工事

5

○1.適用基準等

○2.技能士

○3.工事実績情報の登録

○4.建築材料等

○5.発生材の処理等

○6.工事写真等

○7.完成図等

○1.監督員事務所

○2.工事用水

○3.工事用電力

○1.合成高分子系ルーフィングシート防水

○2.塗膜防水

○3.シーリング

○4.保証書及び期間

○1.陶磁器質タイル張り及びタイル型枠先付

1とい

外壁改修工事特記仕様書による。

※適用する ・ とび ④左官 ⑤塗装(建築塗装作業) ⑥樹脂接着材注入施工

受注者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、実績情報サービス(コリンズ)に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「通知書」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から10日以内に、(一財)日本建設情報総合センターに登録しなければならない。
なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の登録申請を省略できる。
(ただし、期間には、行政機関の休日に関する法律(昭和63年法律第91号)に定める行政機関の休日は含まない)

本工事に使用する建築材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。
ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」による。また、評価を受けたも使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとして行うことができる。

※建設副産物の処理
1)本工事より発生する建設副産物については、再生資源の活用を行うことを原則とし、「廃棄物処理法」、「資源の有効な利用の促進に関する法律」(リサイクル法)、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(建設リサイクル法)、「建設工事公衆災害防止対策要綱」及び「建設副産物適正処理推進要綱」を遵守するとともに、マニフェストシステムにより適正処理を行うこと。
2)建設発生土及び建設廃棄物にあたっては、建設副産物適正処理推進要綱や関係法令を遵守すること。
3)建設発生土及び建設廃棄物処理に起因する災害及び苦情については、受注者の責任において処理すること。
4)建設廃材処分場は、不燃物は最寄りの処分場、可燃物は最寄りの焼却施設とする。
5)建設廃棄物のうち、再生資材として有効利用できるコンクリート・アスファルト塊、金属くず、木くず等については、最寄りの再資源化施設(許可を受けた施設)へ搬出すること。
6)マニフェスト(管理票)の備考欄にせっこうボードの有無を明記するとともに、せっこうボードが含まれている場合は製造会社名等を明記すること。

下記のを監督員に提出する。ただし、原版は撮影業者の保管とする。

区分	分類	規格	撮影枚数	部数	原画の大きさ	備考
※着工前	※カラー ・	※L版程度 ・		※1部 ・	24×36以上	
※工事中	※カラー ・	※L版程度 ・		※1部 ・	24×36以上	
※完成時	※カラー ・	※L版程度 ・ ・キャビン版	枚	※1部 ・	・60×90以上 ・24×36以上	外観4面 主要内部
・実態調査用	※カラー ・	※L版程度 ・	枚	2部	24×36以上	外観4面

保全に関する資料を1部監督員に提出すること。(監督員の指定する様式に基づく保全計画書等)

・設ける(規模 ・ 1号 ・ 2号 ・ 3号 ・ 4号 ・ 5号) ③設けない
・仮設便所 ・ 工事用電話 ・ 設置する備品等の種類及び数量(監督員の指示による)

構内既存の施設 ※利用できない ⑤利用できる (③有償 ・ 無償)
構内既存の給水設備を利用する場合は、水道局へ臨時給水の申請を行い、水道メーターを設置すること。

構内既存の施設 ③利用できない ・ 利用できる (※有償 ・ 無償)

工程種別	適用箇所	仕上げ塗料塗り	厚さ
・S-F2	立上り部		※1.5mm
・S-M2	平場部		※1.5mm
使用材料	ルーフィングシート	JIS A 6008(合成高分子系ルーフィングシート) 遮熱仕様(平場のみ)	
	絶縁用シート	発泡ポリエチレンシート	
	その他の材料	プライマー、増張り用シート、成形役物、接着剤、シール材等は、製造所の指定する製品とする。	

ウレタン系塗膜防水

工程種別	施工箇所
・X-1(絶縁工法)	平場部
⑤X-2(密着工法)	屋根箱樋

下表以外は、表3. 7. 1による

建具廻り	変成シリコン系(MS-2)	ノーワーキング
アルミパネル部	ポリサルファイド系(PS-2)	ノーワーキング

防水工事の施工については、10年保証書を提出すること。
なお、保証書は、受注者と施工業者の連帯とする(シーリングを除く)。
保証書の必要な防水工事の施工業者は建設業法の許可業者とする。

タイルの種類

施工箇所	形状・寸法	きじ		うぐすり		役物		色	
		磁器	せつ器	陶器	無ゆう	施ゆう	有	無	標準
		・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・

製造所 (監督員の承諾を得るものとする。)

材種	径	施工箇所	備考
硬質塩化ビニル管	100φ	縦どい	カラー

・外部とい受け金物 ・ 鋼製(垂鉛めっき) ※ステンレス製

章 適用		項 目	特 記 事 項																																													
6 左 官 工 事		1. モルタル塗り	材料 防水モルタルの防水剤 製造所 (監督員の承諾を得るものとする。) ・ 既製目地材 形状 () ・ 床目地設置 工法 (・ 押し目地 ・)																																													
	○	2. 仕上塗材仕上げ	JIS A 6909(建築用仕上塗材) <table><tr><th>種 類</th><th>呼 び 名</th><th>仕 上 げ 形 状 等</th></tr><tr><td rowspan="6">・ 薄付け仕上塗材</td><td>・ 外装薄塗材E</td><td>・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状</td></tr><tr><td>・ 内装薄塗材E</td><td>砂壁状じゅらく</td></tr><tr><td>・ 可とう形外装薄塗材E</td><td>・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状</td></tr><tr><td>・ 防水形外装薄塗材E</td><td>・ ゆず肌状 ・ さざ波状 ・ 凹凸状</td></tr><tr><td>・ 外装薄塗材S</td><td>砂壁状</td></tr><tr><td>・ 内装薄塗材W</td><td>京壁状じゅらく</td></tr><tr><td>・ 軽量骨材 仕上塗材</td><td>・ 吹付用軽量塗材</td><td>砂壁状</td></tr><tr><td></td><td>・ こて塗用軽量塗材</td><td>平坦状</td></tr><tr><td rowspan="3">・ 可とう形改修用 仕上塗材</td><td>・ 可とう形改修塗材E</td><td rowspan="3">・ 凸凹状 ・ さざ波状 ・ 平坦状 耐候性 ※ 耐候形2種 上塗材 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ ウレタン系 ・ シリコン系 外観 ※ つやあり</td></tr><tr><td>・ 可とう形改修塗材RE</td></tr><tr><td>・ 可とう形改修塗材CE</td></tr><tr><td rowspan="3">・ 厚付け仕上塗材</td><td>・ 外装厚塗材C</td><td>吹付け ・ 吹放し ・ 凸部処理</td></tr><tr><td>・ 内装厚塗材C</td><td>こて塗り ・ ひき起し ・ 凸部処理</td></tr><tr><td>・ 外装厚塗材E</td><td>・ 吹放し ・ 凸部処理</td></tr><tr><td rowspan="6">◎ 複層仕上塗材</td><td>・ 複層塗材CE</td><td rowspan="6">※ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸模様 耐候性 ※ 耐候形3種 上塗材 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり ・ つやなし ・ メタリック</td></tr><tr><td>・ 可とう形複層塗材CE</td></tr><tr><td>・ 複層塗材Si</td></tr><tr><td>・ 複層塗材E</td></tr><tr><td>・ 複層塗材RE</td></tr><tr><td>・ 防水形複層塗材CE</td></tr><tr><td>◎ 防水形複層塗材E</td><td></td></tr></table> ・ 樹脂モルタル薄塗り 外部幅木 ◎ 高圧洗浄 15MPa		種 類	呼 び 名	仕 上 げ 形 状 等	・ 薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 内装薄塗材E	砂壁状じゅらく	・ 可とう形外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ 防水形外装薄塗材E	・ ゆず肌状 ・ さざ波状 ・ 凹凸状	・ 外装薄塗材S	砂壁状	・ 内装薄塗材W	京壁状じゅらく	・ 軽量骨材 仕上塗材	・ 吹付用軽量塗材	砂壁状		・ こて塗用軽量塗材	平坦状	・ 可とう形改修用 仕上塗材	・ 可とう形改修塗材E	・ 凸凹状 ・ さざ波状 ・ 平坦状 耐候性 ※ 耐候形2種 上塗材 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ ウレタン系 ・ シリコン系 外観 ※ つやあり	・ 可とう形改修塗材RE	・ 可とう形改修塗材CE	・ 厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	吹付け ・ 吹放し ・ 凸部処理	・ 内装厚塗材C	こて塗り ・ ひき起し ・ 凸部処理	・ 外装厚塗材E	・ 吹放し ・ 凸部処理	◎ 複層仕上塗材	・ 複層塗材CE	※ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸模様 耐候性 ※ 耐候形3種 上塗材 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり ・ つやなし ・ メタリック	・ 可とう形複層塗材CE	・ 複層塗材Si	・ 複層塗材E	・ 複層塗材RE	・ 防水形複層塗材CE	◎ 防水形複層塗材E	
	種 類	呼 び 名	仕 上 げ 形 状 等																																													
	・ 薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状																																													
		・ 内装薄塗材E	砂壁状じゅらく																																													
		・ 可とう形外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状																																													
		・ 防水形外装薄塗材E	・ ゆず肌状 ・ さざ波状 ・ 凹凸状																																													
		・ 外装薄塗材S	砂壁状																																													
		・ 内装薄塗材W	京壁状じゅらく																																													
	・ 軽量骨材 仕上塗材	・ 吹付用軽量塗材	砂壁状																																													
	・ こて塗用軽量塗材	平坦状																																														
・ 可とう形改修用 仕上塗材	・ 可とう形改修塗材E	・ 凸凹状 ・ さざ波状 ・ 平坦状 耐候性 ※ 耐候形2種 上塗材 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ ウレタン系 ・ シリコン系 外観 ※ つやあり																																														
	・ 可とう形改修塗材RE																																															
	・ 可とう形改修塗材CE																																															
・ 厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	吹付け ・ 吹放し ・ 凸部処理																																														
	・ 内装厚塗材C	こて塗り ・ ひき起し ・ 凸部処理																																														
	・ 外装厚塗材E	・ 吹放し ・ 凸部処理																																														
◎ 複層仕上塗材	・ 複層塗材CE	※ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸模様 耐候性 ※ 耐候形3種 上塗材 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり ・ つやなし ・ メタリック																																														
	・ 可とう形複層塗材CE																																															
	・ 複層塗材Si																																															
	・ 複層塗材E																																															
	・ 複層塗材RE																																															
	・ 防水形複層塗材CE																																															
◎ 防水形複層塗材E																																																
○	1. 塗料塗り	耐候性塗料塗 (DP) ※ 鉄部 エポキシ樹脂プライマー2回塗ホリウレタン樹脂2回塗 ※ 樋 エポキシ樹脂プライマー1回塗ホリウレタン樹脂2回塗																																														
8 外 壁 仕 上 塗 材 除 去 工 事	○	1. 分析状況	既存仕上塗材における石綿含有の有無 ・ 未調査(以下の既存仕上塗材について石綿含有の分析調査を行い、監督員に結果を報告すること。石綿が含有されている場合は、施工範囲や工法等について監督員と協議すること。) 調査箇所 (計○か所) ◎ 調査済 ◎ 有 【使用箇所】 底上裏:リシン吹付 ・ 無 屋根:耐火野地板、アスファルトルーフィング 外壁:吹付タイル、シーリング 内壁:下地石こうボード																																													
	○	2. 適用範囲	コンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁における浮き、欠損、爆裂、ひび割れ、の劣化改修工事に先立ち行う石綿含有仕上塗材の除去工事に適用する。																																													
	○	3. 法令等の遵守	大気汚染防止法、労働安全衛生法及び石綿障害予防規則、廃棄物の処理及び清掃に関する法律その他関係法令を遵守するとともに、関係機関等と協議を行い、必要に応じて手続き等を遺漏なく適正に行うこと。 大気汚染防止法、石綿障害予防規則に定められた事項を掲示板により公衆及び作業員の見やすい箇所に掲示すること。また、必要に応じて周辺住民等へ掲示等で周知すること。																																													
	○	4. 事前調査	工事着手前に石綿に関する事前調査を実施し、結果について工事現場に備え置くとともに、発注者へ書面により説明を行うこと。																																													
	○	5. 施工計画	除去作業に先立ち、施工計画書(除去作業管理組織図、除去作業方法、掲示方法、産業廃棄物処理方法等)を作成して監督員に提出すること。 施工計画にあたり、令和3年3月厚労省及び環境省作成「建築物等の解体等作業に係る石綿ばき露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」及び令和3年3月環境省作成「石綿含有廃棄物等処理マニュアル(第3版)」を参考とすること。 作業従事者及び施設利用者等の安全に配慮するとともに、施設利用者等の活動に支障が生じないよう留意すること。																																													
	○	6. 除去作業	1) 共通事項 ① 石綿作業主任者…処理作業にあたって石綿障害予防規則に基づき選任すること。 ② 処理作業従事者…石綿障害予防規則に基づく特別の教育を受けた者とすること。 ③ 作業箇所に近接する室内の開口部等に粉塵が入らないよう窓を閉め、養生及び立入禁止措置を講ずること。 ④ 作業箇所は、作業環境に応じてプラスチックシート等で適切に養生を行うこと。 ⑤ 除去作業後、石綿作業主任者が目視により取り残しがないことを確認すること。 ⑥ 除去完了後、作業箇所及びその周辺(ベランダ内部を含む)をHEPAフィルター付真空掃除機で清掃すること。 ⑦ 除去した仕上塗材及び養生材、保護衣等は、排出形態に応じて適切に保管・運搬・処分を行うこと。 2) 除去作業 ① 除去工法は、以下の石綿障害予防規則第6条の2第2項ただし書きに基づく隔離養生及び湿潤化と同等以上の効果を有する処理工法とすること。それ以外の工法とする場合は監督員と協議すること。 ・ 剥離剤併用手工具ケレン工法 ・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法 ② 使用する剥離剤については環境配慮型とし、使用前に事前試験を行い、適正条件を確認してから本施工すること。																																													
			城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事																																													
			外壁改修工事特記仕様書(1)																																													
			鹿児島市建設局建築部建築課																																													
			G-01																																													

Ver:B0401

I. 一般事項

本特記の範囲は、設計図書に示した外壁のうちコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁を対象とし、これらの浮き、欠損、爆裂ひび割れの劣化を改修する工事に適用する。その他の仕上げ外壁については、監督員と協議し、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編)(令和7年版)に基づき施工する。

※ 仕上塗材が石綿含有の場合は、各工法において下線部分を遵守すること。

外壁の改修範囲については、施工前に建築仕上診断技術者（ビルディングドクター）による全面打診調査を行い、その結果に基づき、数量表及び図面（A3サイズ紙とJW-CADデータ）で構成する「調査報告書」を作成し、監督員に提出すること。

なお、調査にあたってはマーキングを行い、監督員の打診検査後、全ての改修箇所について番号を表示すること。

施工数量調査のマーキング後、監督員による打診検査を受けること。また、外壁改修完了後は吹付工事前に監督員の完了検査を受けること。

なお、施工中に、設計図書に明示のない箇所又は判断出来ない箇所が発見された場合は、監督員と協議を行い、施工すること。

ポリマーセメントモルタル充填工法による改修箇所のうち監督員の指示する箇所について、表面引張り試験を監督員立会いのうえ実施し、その試験成績書を完成書類に添付すること。

浮き部、ひび割れ部の樹脂注入工事に際しては、樹脂接着剤注入施工技能士を1名以上選任し、当該工事中自ら作業をするとともに他の技能者の作業指導を行い、施工品質の向上に努めるものとする。

左官、塗装工事は技能士を適用する。

改修工事完了後、施工数量表及び施工図面(A3)で構成する「施工報告書」を作成し、完成書類に添付すること。

改修工事を行った部分については、工程(工法・状態別に各2ヶ所)、完了後の写真を提出すること。

工事写真はすべてカラーとし、サイズはL版程度とする。

※ 撮影箇所及び方法等は、監督員と協議の上、決定すること。

- 1) 提出データ : 施工報告書、工事写真(完了後)
- 2) データ提出媒体: データ提出用は、「CD-R」または「DVD-R」とする。
- 3) データ保存形式: 図面データは、国土交通省の「官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕業務編】」の標準形式とする。
写真データは、JPEG(写真帳等にまとめる場合はPDF)とする。

※ 原則に依りがたい場合は、事前に監督員の承諾を得るものとする。

改修工事の施工については、保証書(3年)を提出すること。なお、保証書は受注者と施工業者の連帯とする。

※ マーキング、調査報告書、施工報告書、完成写真に付与する番号(面毎の通し番号)は統一させること。

1. ポリマーセメントモルタル充填工法

コンクリート打放しの欠損、爆裂の改修で全ての部位に適用し、モルタル塗り仕上げ面の欠損、爆裂、落下の恐れのある浮き(※1)の補修で下記の部位に適用する。ただし、0.25㎡未満で塗厚が30mmを超える場合は、監督員と協議の上、工法を決定すること。

イ) パラペット ロ) 庇鼻 ハ) 窓面台及び笠木 ニ) 揚裏 ホ) 全ての部位の爆裂部

へ) 柱壁、だき、まぐさの0.25㎡未満の部分

※ 改修工事に先立ち石綿含有仕上塗材を除去すること。(補修範囲及び周囲5cm部分)

- 1) ポリマーセメントモルタルは、合成ゴム系、アクリル系とし既調査とする。なお、製品については次の品質基準に適合するものとする。
曲げ強さ：6N/mm²、 圧縮強さ：20N/mm²、 接着強さ：1N/mm²
- 2) 被着面に塗布するプライマーは、ポリマーセメントモルタルの製造所の指定する製品とし、ポリマーセメントモルタルの付着に支障のないものとする。
- 3) 防錆材等は、製造所の指定する製品とする。
- 4) 鉄筋及びコンクリート面に塗布する防錆材等は、ポリマーセメントモルタルの付着に支障のないものとする。

- 1) テストハンマーの打撃により、はがれ、剥落のおそれのある部分を確認し、補修範囲について監督員と協議する。
- 2) 欠損部及び塗替部周辺の脆弱部は、健全部にカッターを入れ、他の部分の浮きを誘発することのないよう内側のモルタルをハンマー等により除去し、欠損部の状況を目視で確認する。
- 3) 下地部分はワイヤーブラシ等でケレンし、汚れ、ほこり、油等の除去、清掃を行う。又、部分的に露出している鉄筋及びアンカー金物等は、健全部が露出するまでコンクリートをはつきり落とし、ワイヤーブラシ等でケレンを行い、錆を除去し、防錆材等を塗布して防錆処理を行う。

4) プライマーを被着面に刷毛を用いて塗布する。

5) 各層の塗り厚は7mm程度とし、養生期間は1週間以上とする。ただし、製造所の仕様等により期間を短縮する場合は、資料を監督員に提出し承諾を受けること。

6) ポリマーセメントモルタルの面積が0.25㎡以上で塗厚が厚い(厚さ25mm以上)場合は、ポリマーセメントモルタルの下塗りに先立ち、ステンレスアンカーピンを縦横200mm間隔程度に躯体コンクリートに固定し、ステンレスなまし線を張り、足がかりをよくしてからポリマーセメントモルタル塗りを行う。ステンレスアンカーピンは塗厚に応じて長さを変えること。

7) 表面は金コテ又は刷毛引き仕上げとする。

8) 各層とも急激な乾燥を避け、適切に養生する。

9) 各工程に伴う作業は、製造所の仕様を準用する。

下地の脆弱部分の除去と堅固な下地を確認する。

モルタル塗り仕上げ面の欠損、落下の恐れのある浮き(※1)の改修で下記の部位及び他工法により施工ができない部分に適用する。

イ)柱壁、だき、まぐさの0.25㎡以上の部分 ロ)庇天端

※ 改修工事に先立ち石綿含有仕上塗材を除去すること。(改修範囲及び周囲5cm部分)

1) ポリマーセメントモルタル、ポリマーセメントペースト用の混和材料は、JIS A 6203(セメント混和用ポリマーディスページョン及び再乳化形粉末樹脂)の規格に適合したもので監督員の承諾を受けたものとする。

2) 保水剤は、メチルセルロースの類とし、使用量等の資料を監督員に提出し承諾を受けること。

- 1) テストハンマーの打撃により、はがれ、剥落のおそれのある部分を確認し、補修範囲について監督員と協議する。
- 2) 欠損部及び塗替部周辺の脆弱部は、健全部にカッターを入れ、他の部分の浮きを誘発することのないよう内側のモルタルをハンマー等により除去し、欠損部の状況を目視で確認する。
- 3) コンクリート面等の下地及び各塗層は、清掃のうえ適度の水湿を行った後、次の層を塗る。
- 4) 下地部分はワイヤーブラシ等でケレンし、汚れ、ほこり、油等の除去、清掃を行う。又、部分的に露出している鉄筋及びアンカー金物等は健全部が露出するまでコンクリートをはずり落とし、ワイヤーブラシ等でケレンを行い、錆を除去し、防錆材等を塗布して防錆処理を行う。
- 5) コンクリート下地には、モルタルとの付着力を大きくするためにセメントペースト(1mm程度、保水剤使用)又は、製造所の指定する吸水調整材を薄く塗付け、引き続き下塗りを行う。
- 6) モルタルの塗厚が厚い(厚さ25mm以上)場合は、モルタルの下塗りに先立ち、ステンレスアンカーピンを縦横200mm間隔程度に躯体コンクリートに固定し、ステンレスなまし線を張り、足がかりをよくしてから接着剤混入モルタル塗りを行う。ステンレスアンカーピンは塗厚に応じて長さを変えること。
- 7) 現場調査ポリマーセメントモルタルの調査は、公共建築改修工事標準仕様書「4. 4. 9」による。
- 8) 各層の塗厚は、7mm程度とし、下塗りの養生期間は2週間以上とすること。(中塗り以降は乾燥次第随時塗付け可)

下地の脆弱部分の除去と堅固な下地を確認する。



3. アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

① 適用範囲

モルタル塗り仕上げ面で落下の恐れのない(※2)浮き部に適用する。

② 材料

- 1) エポキシ樹脂は、JISA6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)に適合するものとする。
2) アンカーピンは材質は、ステンレス鋼(SUS304)とし、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したものとする。

③ 工法

- 1) テストハンマーを用いて浮き部を確認し、チョーク等で明示の上、注入範囲について監督員と協議すること。
2) 浮き部分に対するアンカーピン本数は、一般部分(壁面等)は16本／㎡、指定部分(揚裏、パラペット)は25本／㎡、狭幅部は幅中央に5本／mとする。又、所定の本数が浮き部分に対して均等に配置されるよう穿孔位置をマーキングする。
3) 穿孔はコンクリート用ドリルを用い、使用するアンカーピンの直径より約2mm大きい直径とし、壁面に対し直角に穿孔する。穿孔はマーキングに従って行い、構造体コンクリート中に30mm程度の深さに達するまで行う。穿孔後は、十分孔内を清掃して、接着の妨げとなる切粉等を除去する。(清掃は電気ブロー器具同等以上の清掃器具を使用すること。)

※石綿含有仕上塗材の穿孔にあたっては、粉じん飛散防止のため、水循環式ドリル又は集じん装置(HEPAフィルター)ドリル使用とすること。

- 4) アンカーピン固定用エポキシ樹脂を手動式注入器を用い、注入口の最深部より徐々に充填する。充填量は、挿入孔1箇所当たり25mlとする。
5) アンカーピンを挿入孔最深部まで挿入し、パテ状エポキシ樹脂等で仕上げる。
6) 注入部以外に付着した材料は、適切な方法で除去し、清掃する。

④ 確認

アンカーピン固定部のエポキシ樹脂の広がり、固着状況について全数をテストハンマーの打診により確認する。

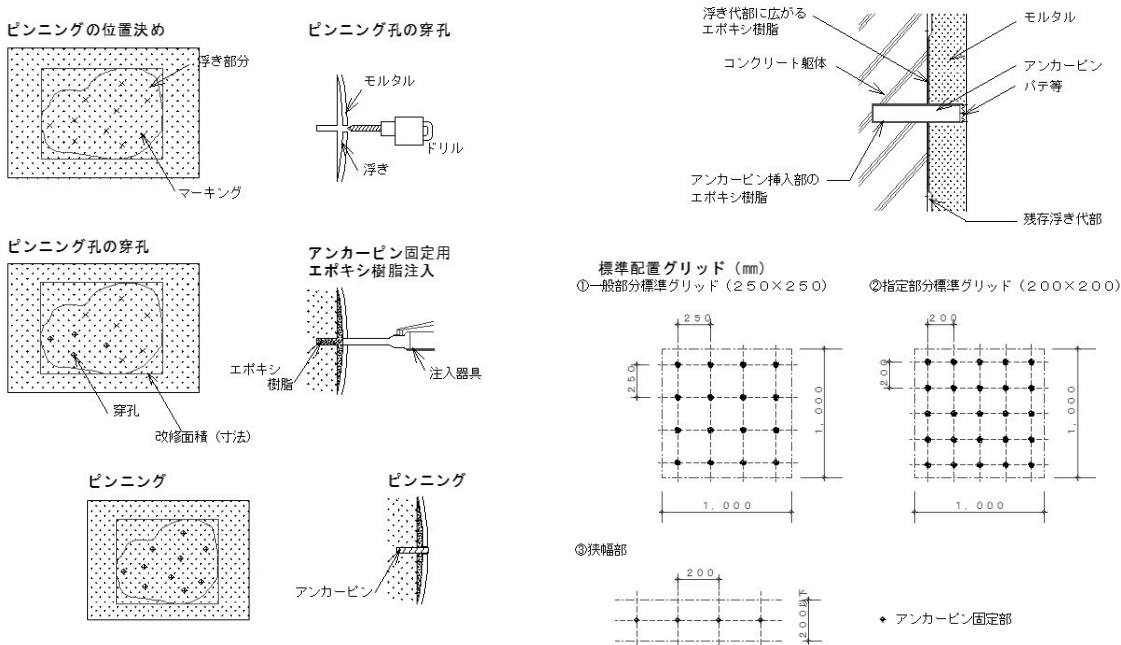


図-3 アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

4. 防水モルタル塗替工法

① 適用範囲

モルタル塗り仕上げ面の改修で監督員の指定する部分。

※改修工事に先立ち石綿含有仕上塗材を除去すること。(改修範囲及び周囲5cm部分)

② 材料

防水剤は、JISA1404に適合するものとする。

③ 工法

- 1) テストハンマーの打撃により、はがれ、剥落のおそれのある部分を確認し、補修範囲について監督員と協議する。
2) 欠損部及び塗替部周辺の脆弱部は、健全部にカッターを入れ、他の部分の浮きを誘発することのないよう内側のモルタルをハンマー等により除去し、欠損部の状況を目視で確認する。
3) コンクリート面等の下地及び各塗り層は、清掃のうえ適度の水湿しを行った後、次の層を塗る。
4) 下地部分はワイヤーブラシ等でケレンし、汚れ、ほこり、油等の除去、清掃を行う。又、部分的に露出している鉄筋及びアンカー金物等は、健全部が露出するまでコンクリートをはつき落とし、ワイヤーブラシ等でケレンを行い、錆を除去し、防錆材等を塗布して防錆処理を行う。
5) コンクリート下地には、モルタルとの付着力を大きくするためにセメントペースト(1mm程度、保水剤使用)を薄く塗付け、引き続き下塗りを行う。
6) 防水モルタルの塗厚が厚い(厚さ25mmを超える)場合は、防水モルタルの下塗りに先立ち、ステンレスアンカーピンを縦横200mm間隔程度に躯体コンクリートに固定し、ステンレスなまし線を張り、足がかりをよくしてから防水モルタル塗りを行う。
ステンレスアンカーピンは塗厚に応じて長さを変えること。
7) 防水モルタルの調合は、防水剤製造所の仕様による。
8) 各層の塗厚は、15mm以下とし、下塗りの養生期間は2週間以上とすること。(中塗り以降は乾燥次第随時塗付け可)

④ 確認

下地の脆弱部分の除去と堅固な下地を確認する。

5. 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

① 適用範囲

コンクリート打放し仕上げ及びモルタル塗り仕上げのひび割れ幅が、0.2～1.0mm以下のひび割れ部について適用する。

② 材料

- 1) エポキシ樹脂はJISA6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)に適合するものとする。
2) シール材は、注入材料製造所の指定する製品とし、既存の塗材、塗料等又は新規の塗材、塗料等に支障のないものとする。

③ 工法

- 1) ひび割れに沿って幅50mm程度の汚れを除去し、清掃する。
※石綿含有仕上塗材の清掃にあたっては、粉じん飛散防止のため、飛散の恐れがあるワイヤブラシ等によるケレンは行わないこと。
※コケ等汚れにより清掃が困難な場合は、監督員と協議を行い、改修工事に先立ち石綿含有仕上塗材を除去すること。
2) 注入孔位置をスケール等で測定し、チョーク等でその位置のマーキングを行う。
3) 注入孔間隔は250mm程度とする。
4) 注入器具又は台座をひび割れが中心にくるようにして、仮止めシール材等で取り付けれる。
5) 混練したエポキシ樹脂を注入器具に入れ、ゴム、パネ、空気圧等により注入圧を0.4N/㎡以下として注入する。
6) 注入時は、台座やシール部からの漏れをチェックし、注入器具内のエポキシ樹脂の減量状態を確認して、足りない場合は補充し、注入器具の中に多少樹脂が残った状態で注入を完了する。なお、注入完了後は、注入器具を取り付けたまま硬化養生をする。
7) エポキシ樹脂注入材の硬化を見計らい、仮止めシール材及び注入器具を適切な方法で撤去し、清掃を行う。

④ 確認

注入時の確認は一つ上の注入器具から漏出することを確認する。注入後の確認は注入が行われたか否かを目視する。

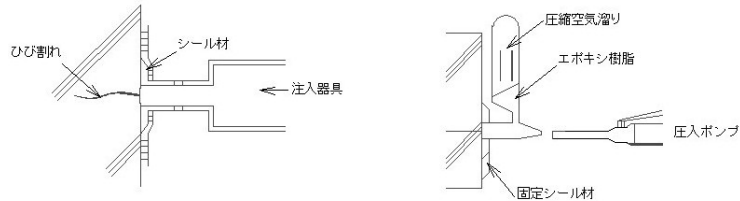


図-4 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

6. Uカットシーリング材充填工法

① 適用範囲

コンクリート打放し仕上げ及びモルタル塗り仕上げのひび割れ幅が1.0mmを超え、かつ挙動されるひび割れ部をUカットシーリング用材を充填しポリマーセメントモルタルを塗り込む場合に適用する。

※改修工事に先立ち石綿含有仕上塗材を除去すること。(ひび割れ沿いの幅5cm部分)

② 材料

- 1) シーリング材は、JISA5758(建築用シーリング材)に適合するものとする。
2) プライマーは、主材製造所の製品とし、被着体(塗装してある場合は塗料)に適したものとする。
3) バックアップ材は、合成樹脂又は合成ゴム製でシーリング材と接着しないものとし、使用箇所に適した形状で大きさが目地幅より2mm程度広いものとする。

③ 工法

- 1) ひび割れ状況について確認し、補修範囲について監督員と協議すること。
2) ひび割れ部に沿って電動カッター等を用いて幅10mm程度、深さ10～15mm程度にU字型の溝を設ける。
3) Uカット溝内部に付着している切片、粉塵等はワイヤーブラシ、はけ等で除去する。
4) 被着体に適したプライマーを溝内部に塗残しないよう均一に塗布する。
5) プライマー塗布後、ごみ・ほこり等が付着した場合又は当日充填が出来ない場合は再清掃し、プライマーを再塗布する。
6) プライマー塗布後、シーリング材を隅々まで行きわたるようにコーキングガンノズルをUカット溝に当て、加圧しながら空隙、打残しがないように充填し、コンクリート表面から3～5mm程度低めに充填し、充填後はへらで押え、下地と密着させて表面を平滑に仕上げる。
7) ポリマーセメントモルタルをコンクリート表面に合わせて平滑に塗り込む。

④ 確認

シーリング材の充填状況を目視により確認する。

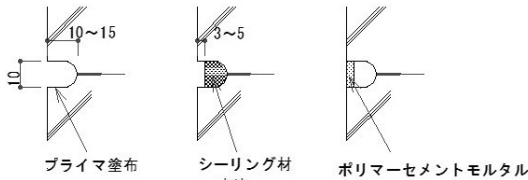


図-5 Uカットシーリング材充填工法

7. その他

① 以下の場合については、監督員と協議の上工法を決定すること。

- イ) 構造耐力に関するコンクリートの劣化ある場合
ロ) 漏水がある場合
ハ) その他、施工方法について、判断出来ない箇所が発見された場合

② 発注時の外壁改修数量は推計値によるものである。

③ 石綿含有仕上塗材の高圧洗浄にあたっては、粉じん飛散防止のため、高圧水洗浄法(15MPa以下)とすること。

※1 通常レベルの打撃力によってはく落する恐れのあるモルタル浮き

※2 通常レベルの打撃力によってはく落する恐れのないモルタル浮き

城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事		
外壁改修工事特記仕様書(3)		G-03
鹿児島市建設局建築部建築課		

Ver: B00401

工事概要

構造・階数	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造・平家建
外壁改修面積	9 7 5㎡
屋根防水改修面積	3 7 ㎡

1. 外壁改修

- 外壁仕上り部の不良箇所(浮き部、ひび割れ等)について、特記仕様書に基づく工法にて改修を行うこと。

《外壁改修工事工法一覧表》

(モルタル面)		(コンクリート面)	
工法	部位	数量(推計値)	
ポリマーセメントモルタル充填工法(PBL)	爆裂部	19	m
アンカーボルト部分に樹脂注入工法(A16)	浮き部	914	本
自動式低圧注入樹脂工法(H)	ひび割れ部	95.2	m

※施工数量は推定値のため、全面打診調査後、監督員と協議の上、決定するものとし、設計変更の対象とする。

2. シーリング 打替

建具廻り：ms-2(15×10) アルミ部：PS-2(15×10)

3. 塗装工事

外壁：高圧水洗浄(15MPa)の上、仕上材の改修を行うこと。

部位		既存塗装種別	改修塗装種別
外壁・柱型・庇外面	吹付タイル	防水形複層塗材E	
	軒庇		
上裏面	軒庇	吹付タイル	軒天用仕上塗材
	庇	リシン吹付	
	玄関ポーチ	AEP塗	

巾木部：高圧水洗浄(15MPa)の上、下地調整RC種後、DP塗装(3級)

縦樋：下地調整RC種後、DP塗装(3級)(10本)

ドレン：下地調整RB種後、DP塗装(3級)(ルーフトレ 9箇所、中継ドレン 4箇所)

4. 防水工事

屋根箱樋：高圧水洗浄(15MPa)、下地調整の上、ウレタン系塗膜防水(X-2)

5. その他

底上面：高圧水洗浄(15MPa)を行う。

外壁改修面

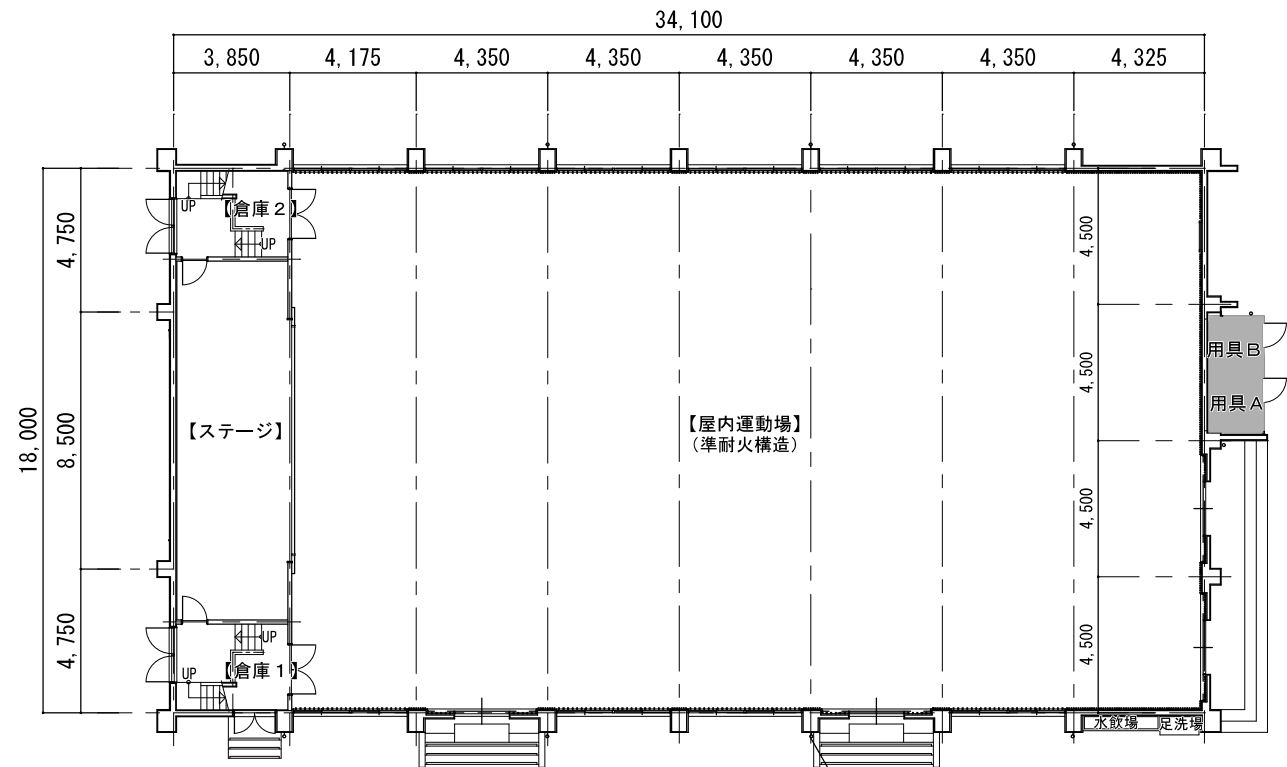
	改修面積	該当箇所
モルタル面	865㎡	外壁・柱型・庇外面・軒庇外面
コンクリート面	84.2㎡	軒庇上裏面
成形板面	25.7㎡	庇上裏面・玄関ポーチ上裏面

(コンクリート面)

工法	部位	数量(推定値)
ポリマーセメントモルタル充填工法(PBL)	爆裂部	3.7 m
自動式低圧注入樹脂工法(H)	ひび割れ部	7.4 m

特記事項

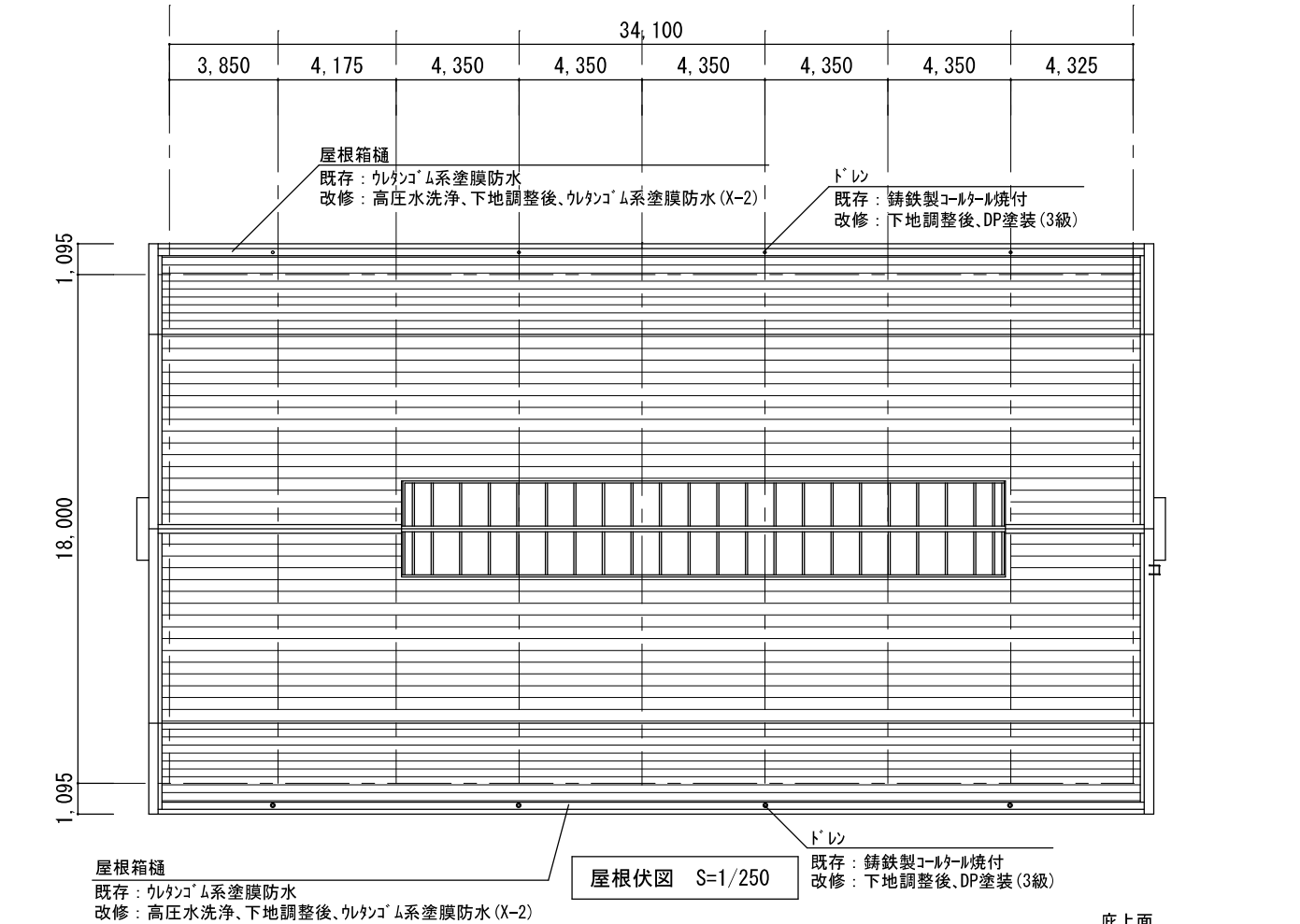
※既設の樋受け金物について、腐食又は外れている等、安全上支障のある場合は監督員に報告すること。



1階平面図 S=1/250

縦樋

既存：硬質塩化ビニル管VU100 VP塗
改修：下地調整後、DP塗装(3級)



屋根伏図 S=1/250

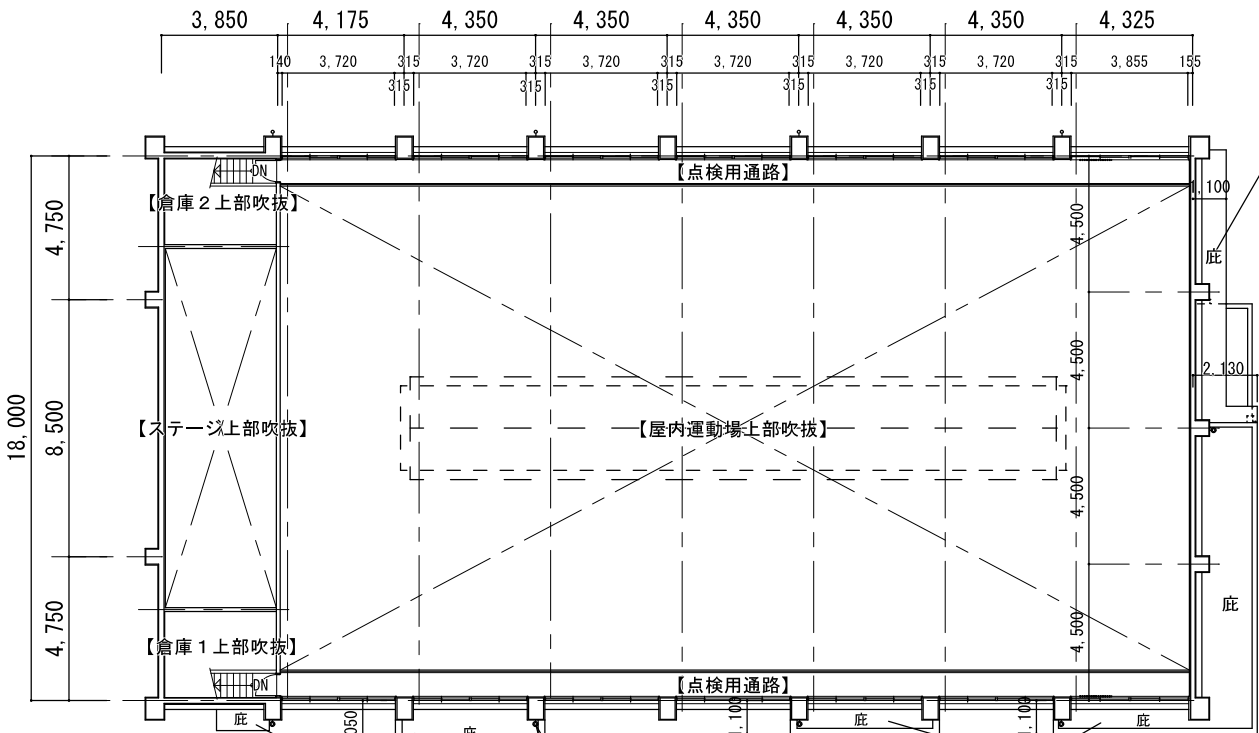
屋根箱樋
既存：ウレタン系塗膜防水
改修：高圧水洗浄、下地調整後、ウレタン系塗膜防水(X-2)

ドレン

既存：鑄鉄製コールル焼付
改修：下地調整後、DP塗装(3級)

底上面

既存：防水モルタル仕上
改修：高圧水洗浄



2階平面図 S=1/250

縦樋

既存：硬質塩化ビニル管VU100 VP塗
改修：下地調整後、DP塗装(3級)

ドレン

既存：鑄鉄製コールル焼付
改修：下地調整後、DP塗装(3級)

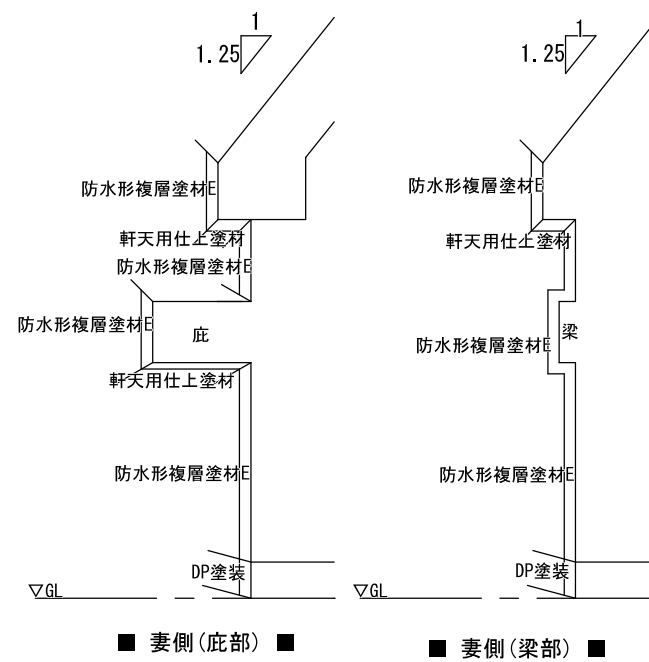
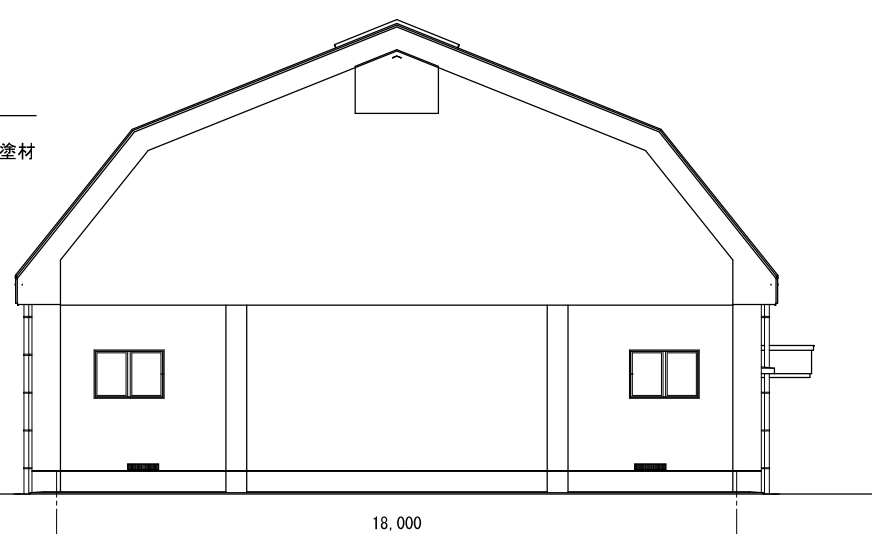
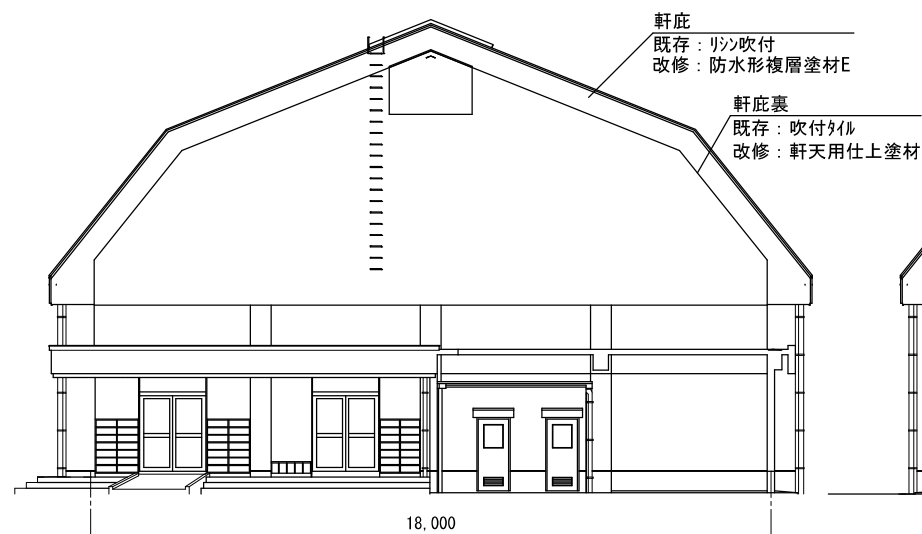
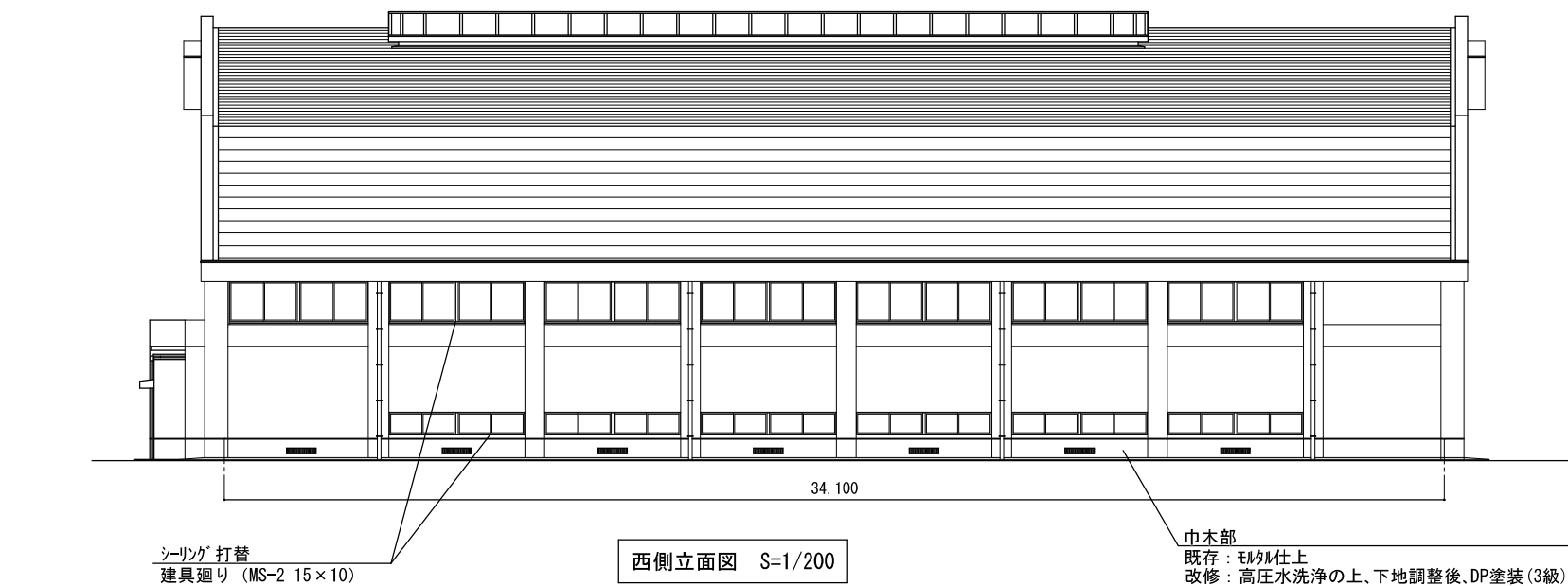
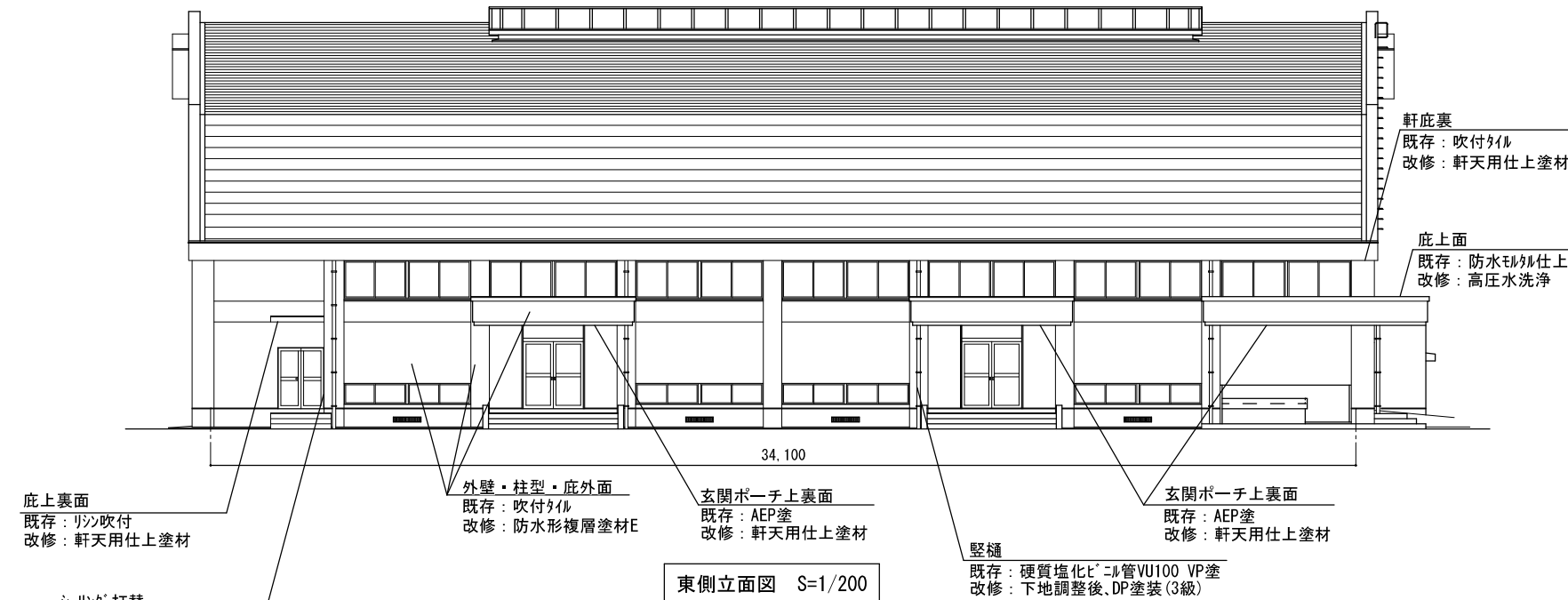
底上面

既存：防水モルタル仕上
改修：高圧水洗浄

城西公民館屋内運動場屋根改修その他工事

工事概要(外壁改修・屋根防水改修)
平面図

鹿児島市建設局建築部建築課



塗装吹付図

